

## NHK東京において制作された電子音楽の調査(1952~1968年)

Survey of Electronic Music Composed in Tokyo NHK (Japan Broadcasting Corporation) (1952-1968)

川崎 弘二(電子音楽研究)、志村 哲(大阪芸術大学)

KAWASAKI Koji (Scholar of Electronic Music), SHIMURA Satoshi (Osaka University of Arts)

**Keyword** NHK、NHK電子音楽スタジオ、ミュージック・コンクレート、ライブ・エレクトロニック・ミュージック、電子音楽、日本放送協会

### 1. はじめに

フランス放送協会では1948年、北西ドイツ放送では1951年、そして、イタリア放送協会では1953年にミュージック・コンクレートや電子音楽の制作がスタートしており、第2次世界大戦後の各国ではこぞって電子テクノロジーを援用した音楽への取り組みが始められることとなった。日本においてもNHKにおいて録音再生技術を用いた音楽の制作が1952年からスタートし、55年には日本初の電子音楽がNHKラジオから放送されている。その後、50年近くにわたってNHKでは数多くの電子音楽が作曲されてきたが、その全貌はいまだ明らかになっていないのが現状である。そこで「NHK番組アーカイブス 学術利用トライアル」というプロジェクトを利用して、NHK東京放送局にて制作された電子音楽についての調査を行ったので、その成果をここに報告する。

### 2. 調査方法

「NHK番組アーカイブス 学術利用トライアル」とは、NHKアーカイブスが保存している番組の学術利用の方法を検討するというプロジェクトである。このプロジェクトは公募によって採択され、NHK放送博物館(東京)、NHK大阪放送局にてデジタル化された65万本に及ぶ過去の番組を視聴することができる。筆者は2016年3月から6月にかけてこのトライアルに基づき、主にNHK放送博物館にて番組の視聴と各種調査を行った。

### 3. NHKにおける電子音楽の黎明 (1)増井敬二

1952年6月に「音楽のアトリエ」という番組において、芥川也寸志「マイクロフォンの為のファンタジー」とい

う作品が放送された。この作品はマイクの使用によってオーケストラの各楽器の音量のバランスを変化させ、さらに金属的な音響の低速再生やシンバルの逆再生など、NHKにおける録音再生技術を援用した音楽の嚆矢となるものである。そして、1953年10月には芸術祭参加番組として「マイクロフォンのための音楽」という番組が放送され、上記の芥川の作品のほかに富永三郎と深井史郎による同傾向の作品が取り上げられた。このような作品が制作されるようになった背景として、1951年9月に民間のラジオ放送がスタートし、52年度からは民放も芸術祭の放送部門への出品が可能になっていたことが挙げられる。すなわち、全国の放送局は芸術祭を舞台に、組織を挙げて番組の質の高さを競い始めるようになっており、授賞を狙うには新しい芸術の世界を、録音再生技術の限界に挑戦することで切り拓くことが必須だったのである。その点で電子音楽という存在はその両者を満たすものとして当時の制作者たちの目に映ったものと考えられ、1953年11月には日本文化放送からも日本初のミュージック・コンクレートである黛敏郎「XYZ」が芸術祭参加番組として放送されている。

この「マイクロフォンのための音楽」という番組は増井敬二によってプロデュースされた。フランスやドイツでは機材が多く存在する放送局内にスタジオが設置され、作曲家を中心にそのスタジオの運営方針が立てられていたわけであるが、芸術祭などの機会にプロデューサーが企画を立て、スタッフが編成され、作曲家に委嘱が行われ、番組が完成するとそのプロダクションは解散するというスタイルは極めて日本的なありかただったものと思われる。増井は1954年と55年の11月に放送され

た芸術祭参加番組「あなたには聞えませんか」（伊藤海彦作、山田和男音楽）と「新しい星の生れる時」（伊藤海彦作、林光音楽）を演出している。ステレオで制作されたこの音楽物語では、「立体と通常の録音機計六台、円盤再生機二台のほか、トーキング・サウンドマシーン、音声分解合成装置<sup>1)</sup>といった機材を使い、「技研が開発した効果音に言葉を話させるソノボックス、ヴォコーダーを使ったり、テープの回転速度を変えた声（歌声も使用）を多用し、さらにシンフォニー・オーケストラによる音楽はステレオで、音楽自体の方向感を常に移動させる<sup>2)</sup>などの当時の技術を駆使した制作が行われたという。

#### 4. NHKにおける電子音楽の黎明 (2) 諸井誠

諸井誠は「音楽芸術」誌の1954年6月号に「電子音楽の世界」という文章を寄稿した。この文章は西ドイツ放送局にて試みられていた電子音楽の試みについての論文を紹介したものであり、日本でも「電子音楽」という未知の音楽に対する関心が高まることとなった。1955年に柴田南雄は電子音楽について触れた文章の中で「昨年はNHKで入野義郎氏が短いものを作っている<sup>3)</sup>という証言を残しており、58年に諸井は「それ（註・『電子音楽の世界』）を書いて今度はNHKの技術関係の人がおもしろいからやりたいといって、それでスタジオを準備したところまでつきあったのです<sup>4)</sup>と回想し、そして、「音楽芸術」誌の1964年1月増刊号に掲載された諸井の文章には「一九五四年（略）NHKの技術陣とプロデューサーの有志と共に始めた実験<sup>5)</sup>が日本の電子音楽の始まりであると記されている。これらの資料から1954年の後半には入野や諸井の参加により、電子音楽の実験がNHKにおいて始められていたものと考えられる。諸井は「この時スタッフの中にいたのが塩谷（註・宏）氏で（略）実験開始の約半年後、黛敏郎が加わり<sup>6)</sup>と述べており、諸井自身は1955年5月から渡欧したため、一時的に電子音楽の実験から離れることとなった。今回の調査によ

て、諸井による「日本最初の実験」「NHKの技術部が作成した『資料』第1号」という注釈が付けられた電子音楽の断片がNHKに残されていることが明らかとなった。この電子音楽は単純な電子音の合成によるプリミティブなものであるが、1955年5月までには諸井の主導により「電子音楽」が日本にも誕生していたことが分かる。

#### 5. NHKにおける電子音楽の黎明 (3) 吉田直哉

増井敬二や諸井誠らの取り組みと並行して、吉田直哉も録音再生技術を援用した番組作りに取り組んでいた。NHKは1925年3月22日に放送を開始したため、この日を「放送記念日」と名付け、この記念日には放送の発展を示す特集番組が制作されていた。1953年に入局したばかりの吉田にも企画を提案する権利が与えられ、放送開始30周年を記念した1955年の放送記念日には現実音と音楽によって季節を表現した早坂文雄、佐藤慶次郎、武満徹、鈴木博義「音の四季」という番組が放送されている。その後、吉田は平日の午後に放送される「婦人の時間」という教養番組の担当となり、この枠において1955年7月には武満徹、秋山邦晴「海の幻想」、55年10月には草野心平「マイクロフォンのための詩集」、そして、56年8月には富田勲「倉庫番のケンちゃんの耳の冒険」という録音再生技術を援用した番組を制作している。なお「海の幻想」は海の記念日、「マイクロフォンのための詩集」は文化の日を中心に開催される「放送芸能祭」の特集番組として制作されており、こうした機会に人手と予算の必要となる録音再生技術を使用した番組が制作されていたことが分かる。

#### 6. NHKにおける電子音楽の制作開始

NHKは1955年度の芸術祭の音楽部門にミュージック・コンクレートと電子音楽を出品する。増井敬二は1954年11月から放送を開始した「立体音楽堂」というステレオの番組を担当しており、この枠の放送1周年を記念して柴田南雄「立体放送のためのミュージック・コンクレ

1 増井敬二「立体音楽堂」『放送文化』13巻8号（1958年8月）57頁

2 増井敬二「世界最初のステレオ放送番組『立体音楽堂』」洋楽放送70年史プロジェクト編『洋楽放送70年史 1925—1995』ミュージアム図書（1997年3月）100頁

3 柴田南雄「一九三〇年以降の音楽史」『音楽之友』1955/04；13（4）：56。

4 諸井誠、中島健蔵「諸井誠と会う」『シンフォニー』1958/12；37：25。

5 諸井誠「電子音楽」『音楽芸術』1964/01；22（2）：254。

6 諸井誠「電子音楽」『音楽芸術』1964/01；22（2）：254。

ト」という芸術祭参加番組を制作した。この番組はNHK放送会館の「三階の第一スタジオとその副調整室」<sup>7</sup>にて制作が進められ、芸術祭の奨励賞を獲得することとなった。そして「立体放送のためのミュージック・コンクレート」と同じ日に日本最初の電子音楽である黛敏郎「素数の比系列による正弦波の音楽」「素数の比系列による変調波の音楽」「鋸歯状派と矩形波によるインヴェンション」という3作品も芸術祭参加番組として放送されている。これらの電子音楽は長くNHKで電子音楽の制作に携わることとなる上浪渡や技師の塩谷宏が参加し、NHK放送会館の「一階の第四、五、六と三つスタジオが並んでいる、その廊下の角のスタジオの副調整室」<sup>8</sup>にて制作が進められた。なお、この電子音楽の制作のため北西ドイツ放送の技術報告書の電子音楽特集号が邦訳され「放送用台本」という名目で印刷されている。

1956年8月には「音楽のおくりもの」の枠で放送された戸田邦雄の歌劇「あけみ」において部分的にミュージック・コンクレートが使用され、1956年度の芸術祭には電子的変調の施された三枝健剛(嘉雄)の演出による「瓶の中の世界」(駒田信二作、長谷川良夫音楽)、第三曲がミュージック・コンクレートによって制作された芝祐久/唯是震一「立体放送のための日本組曲」、そして、諸井と黛による電子音楽「七のヴァリエーション」などが出品された。「七のヴァリエーション」は日本の「電子音楽の技術的理論的基礎を築きあげた」<sup>9</sup>作品であり、NHK放送会館の新館にあったNHKホール(1955年3月完成)の観覧室をスタジオにして制作が行われ、このスタジオは1963年度の末までは電子音楽の制作に使用されていたようである。なお「七のヴァリエーション」の放送解説ではNHK音楽部/NHK技術部/NHK技術研究所の共同制作による作品であるとアナウンスされており、諸井と黛がこの作品の共作を機に結成したグループ「アルス・ノヴァ」が1957年3月に開催した演奏会の冊子では「NHK電子音楽スタジオのスタッフの手で製作された」<sup>10</sup>と記されている。すなわち「NHK電子音楽スタジオ」という呼称は「七のヴァリエーション」の放送後から対外的に使用され始めていることが分かる。なお、

1956年度の芸術祭では上記の作品のうち「瓶の中の世界」のみが奨励賞を受賞することとなった。

## 7. 日本独自の展開 「葵の上」

1957年の1月1日と2日にはNHKラジオにおいて19時から電子音楽の特集番組が放送されており、元日のゴールデンタイムに取り上げられるほど大衆の電子音楽に対する関心は高まっていた。そして、この年の放送記念日の特集番組として武満徹による音響構成「現代」という「リベット、電気ドリル、自動車のブレーキなどの音と、町の雑音、赤ん坊の泣き声、キャバレーの騒音などをつなぎあわせて、現代のフンイキ」<sup>11</sup>を表現しようとした番組が放送されている。1957年の芸術祭には上浪渡が演出した黛敏郎の電子音楽「葵の上」や、増井の演出による「男の死」(谷川俊太郎作、武満徹音楽)などが出品されている。「葵の上」の台本には黛の名前が記入されておらず、こうした点からもNHKでは芸術祭に参加するプロデューサーの企画が先行し、その後作曲家が選定されていたことを確認することができる。黛は電子音楽の作曲において「十二音技法に端を発する音楽の抽象化の末に失われた人間性や民族性を、電子音楽という完成されたインターナショナルな言語を駆使して、東洋人の持つ感覚や思想に基づき新しい形で抽象して行く」<sup>12</sup>ことを目指しており、電子テクノロジーによって能の世界を表現した「葵の上」はNHKの電子音楽を日本独自の方向へと展開させる契機としての作品となった。なお「葵の上」はNHK電子音楽スタジオの制作であると放送解説にてアナウンスされているが、オーケストラや合唱の他にミュージック・コンクレートも使用された「男の死」は、NHK電子音楽スタジオの制作であるとは特に謳われていない。しかし「男の死」のミュージック・コンクレート部分は単純に繋ぎ合わされることで「空、馬そして死」という独立した作品となり、後の多くの資料でこの作品はNHK電子音楽スタジオの作品である旨が記されている。すなわち、NHK電子音楽スタジオが知名度を得るに従って、事後的に作品リストへと加えられるケースも存在していたというわけである。

7 柴田南雄『わが音楽 わが人生』岩波書店、1995/09：274。

8 柴田南雄『わが音楽 わが人生』岩波書店、1995/09：274。

9 諸井誠「電子音楽」『音楽芸術』1964/01；22(2)：255。

10 諸井誠、黛敏郎「電子音楽『7のヴァリエーション』」冊子『ars nova』1957：8。

11 無記名「放送記念日」『毎日新聞』1957/03/20：6。

12 川崎弘二編著『日本の電子音楽 増補改訂版』愛育社、2009/03：744。

## 8. B・G音楽としての電子音楽

上記したように1955年から57年にわたってNHKは芸術祭に3作の電子音楽を出品したものの、いずれも賞を受けることはなかった。NHKにおける電子音楽の制作を当初から推進していた上浪渡は、「葵の上」の制作後NHK大阪へ1年半ほど転勤することとなり、1958年に電子音楽は制作されることはなかった。また、1957年10月には国際放送コンクール「イタリア賞」に「瓶の中の世界」が入賞し、58年10月には増井敬二の演出による「言葉と音楽のための三つの形象」（武満徹／林光／入野義朗作曲）がグランプリを受賞したことで、番組の芸術性や放送技術の高さを競う場は芸術祭からイタリア賞へと移行していくようになる。

この時期について諸井誠は「純電子音楽の製作は一時中断されていた。『七のヴァリエーション』を越える作品を作るための実験には、全く時間も人手も与えられなかったからである。それ故、劇的作品や、夥しい数のB・G音楽などの製作を通じて、ぼくは、塩谷氏達と新しい音響合成の実験をくり返し、技術のみがき、スタジオの設備改善と器械類の補充計画をたてた」<sup>13</sup>と述べている。諸井の言う「B・G音楽」の例として、1959年8月からFM実験放送にて放送が開始された「夕べのひととき」という番組のテーマ音楽が挙げられる。諸井はこのテーマ音楽をNHK電子音楽スタジオにて制作しており、この年に諸井は他に電子音楽による4曲の「テーマ音楽」（細部の構成の違う曲を2曲ずつ）を手掛けている。なお、NHKでは1960年から67年にかけて114名の作曲家に対して主にテレビ番組のBGMに使用するための2,903曲にも及ぶ「バック音楽」を制作していた。諸井は1960年に電子音楽による「原子炉」「電波」「人工衛星」の3曲を「バック音楽」に提供し、また、61年に制作された「バック音楽」にも「鉱業」「科学実験」「歴史遺産」という諸井の手掛けた電子音楽の存在を確認することができる。

## 9. 劇的作品の要素としての電子音楽

諸井誠の言う「劇的作品」としては、1959年度の芸術祭参加番組「声、電子音、室内楽のための『ピュタゴラスの星』」（石原達二詩、諸井誠音楽）と、音楽詩劇「オンディーヌ」（岸田衞詩、三善晃音楽）をまず挙げることができる。いずれの番組も詩という言葉の要素を

伴っており、音楽についても器楽／合唱／オンド・マルトノ／電子音などが使用されていた。前者はNHK電子音楽スタジオの制作とする記録が確認でき、後者はNHK電子音楽スタジオにて電子音が制作されたという記録がある。これはNHK電子音楽スタジオがラジオ・ドラマのような作品のための効果音を制作する部門として機能し始めるようになったということを示しており、これはさまざまな番組を制作する機関としてのNHKとしては必然的な歩みであったものと考えられる。「オンディーヌ」は芸術祭賞を受賞しただけでなく、翌年度のイタリア賞のグランプリをも受賞することとなり、電子音楽を使用した劇的作品はさらに活発に制作されていくようになる。ただ、1959年の芸術祭には梵鐘を素材にした黛敏郎によるミュージック・コンクレート「カンパノロジー」が出品され、60年3月の放送記念日に放送された「この音をステレオで」という番組では、黛の「ステレオフォニック・エレクトロニクス」という電子音楽が放送されている。こうした例からも多数のルートからNHKにおける電子音楽は発展していったことが分かる。また「ピュタゴラスの星」と「カンパノロジー」は、ラジオ「現代の音楽」の枠から放送されており、この番組は以後のNHKにおける電子音楽を紹介する主要な媒体となっていく。

1960年5月に上浪渡は「波と笛」（伊藤海彦脚色、入野義朗音楽）をNHK電子音楽スタジオの制作による番組として演出し、そして、諸井は60年10月に「音楽のおくりもの」という枠にて放送された安部公房の作による「赤い繭」という作品を手掛け、この作品は電子音楽のパートがNHK電子音楽スタジオにて制作されたとする資料がある。1960年の芸術祭参加番組では「三味線物語」（西川清之作、杵屋正邦音楽）と「日本の昔噺」（若林一郎作、間宮芳生音楽）においてNHK電子音楽スタジオの効果音が使用されており、さらにNHK電子音楽スタジオの制作による「死んだ無名戦士のための鎮魂曲」（ドナルド・リチイ／谷川俊太郎詩、武満徹音楽）も制作されるはずであった。しかし「日本の昔噺」は放送されず、「死んだ無名戦士のための鎮魂曲」も武満の急病のため制作は中止されてしまうこととなった。なお、NHKアーカイブスには武満の作曲による詳細不明のNHK電子音楽スタジオ制作作品として「水の音楽」「鏡

13 諸井誠「電子音楽」『音楽芸術』1964/01；22(2)：255。

の音楽」という作品が存在する。これらはいずれも武満の1960年の作品「水の曲」と「静かなデザイン」を2倍速で再生しただけのものであり、「死んだ無名戦士のための鎮魂曲」の制作時に参考としてテスト制作されたテープが残存してしまったものかもしれない。

1961年7月にはイタリア賞への参加番組として、独唱／合唱／オーケストラ／電子音楽による「長い長い道にそって」(山本太郎脚色、諸井誠音楽)が放送された。そして、1961年11月には芸術祭参加番組として諸井／入野／清水脩の合作による「三つのむかしこ」が放送され、第1部「夜のむかしこ」(伊藤海彦作、諸井誠音楽)はNHK電子音楽スタジオによって制作された。1961年度のNHKでは「電子音楽設備計画のひとつとして、6トラック・テープ録音再生機」<sup>14</sup>が制作されており、62年3月に東京文化会館にて「夜のむかしこ」の改訂版が舞台上演された際には5トラックによる立体再生が行われている。諸井は「長い長い道にそって」の制作によって『ピュタゴラスの星』で始まった声・器楽・電子音楽の総合の試みは、一応ここで結論に達した。そして、ぼくは、『七のヴァリエーション』以来手をつけていなかった純電子音楽の製作に再びとりかかれる確信を得た<sup>15</sup>と述べており、諸井を中心としてその歩を進めてきたNHK電子音楽スタジオは次のステップに移行する時期を迎えたのである。

## 10. 確率と偶然性の導入

1962年6月にNHK教育テレビ「日本の美」の枠から吉田直哉の構成による「日本の文様」が放送された。武満徹はこの番組のために全編にわたるミュージック・コンクレートを作曲したが、音楽の制作は国際ラジオ・センターというスタジオも使用されていたようである。1962年7月には前田直純の演出による立体音楽詩「海の怪奇」(伊藤海彦作、佐藤眞音楽)が放送され、電子音を使用したという資料も残されているものの、この番組のための電子音がNHK電子音楽スタジオで制作されたことを裏付ける資料は見つけることができなかった。そして、1962年度の芸術祭には「3つの電子音楽」と立体音楽物

語「大男の庭」(岩田宏作、別宮貞雄音楽)などの番組が出品された。NHK電子音楽スタジオにて制作された「3つの電子音楽」は電子音のみによる諸井誠「ヴァリエテ」、電子音と室内楽による高橋悠治「フォノジェーム」、そして、電子音と声による一柳慧「パラレル・ミュージック」の3作品が放送され、「大男の庭」はNHK電子音楽スタジオの役割として「効果」とクレジットされている。これまでのNHK電子音楽スタジオにおいて、劇的作品を除く純粹な電子音楽の制作に関与できた作曲家は諸井と黛敏郎の2人に限られていた。しかし、「3つの電子音楽」において複数の作曲家が異なるスタイルで同時並行的に作曲することが可能になったこと、電子音楽が「ヴァリエテ」により飛躍的な前進を遂げたことから、諸井は1962年を「NHK電子音楽スタジオの歴史の第二期の開始点」<sup>16</sup>であるとした。しかし、柴田南雄は狭義の電子音楽の様式が「ヴァリエテ」の発表によって有終の美を飾り、「高橋と一柳によって確率的と偶然的な要素が導入された」<sup>17</sup>ことを指摘している。

## 10. 電子音と器楽による音楽

1963年7月にはイタリア賞参加番組として原和孝の演出による音楽詩「ハイランドの乙女」(内村直也作、佐藤眞音楽)が放送され、63年9月には「海外ラジオドラマ特集」の枠で沖野暲の演出による「星にきらめくナジャ」(木原孝一脚色、湯浅譲二音楽)が放送された。いずれの番組も電子音やミュージック・コンクレートの使用を裏付ける資料があるものの、効果のクレジットは東京放送効果団である。ただ、1963年度のNHKでは「ラジオ、テレビのドラマ、ドキュメンタリー、教育番組など広い範囲にわたり、電子音の使用が行われた」<sup>18</sup>という記録が残されており、NHK電子音楽スタジオにて制作した電子音を使用されているものの、クレジットされていない作品は相当数存在しているものと考えられる。また、映画監督の篠田正浩は1963年8月に完成した「乾いた花」(武満徹音楽)という映画について「シンセサイザーがない時代にその音をもういっぺん合成音に作り変えるというので、ちょうどNHKにその実験場があっ

14 塩谷宏、荒沢清四郎「電子音楽用6トラック・レコードプレーヤ」『放送技術』1962/08；15(8)：24。

15 諸井誠「電子音楽」『音楽芸術』1964/01；22(2)：255。

16 諸井誠「電子音楽」『音楽芸術』1964/01；22(2)：256。

17 柴田南雄「日本の電子音楽の歴史と現状」『季刊トランソニック』1974/10；4：49。

18 日本放送協会編『NHK年鑑'64』日本放送出版協会、1964/10：193。

て、忍び込むようにして（笑い）、そこでね金も払わないでいろいろとその、音の変装というのかな、モジュールを変えていくという、まあ大変面白い実験をやったんですね<sup>19</sup>という発言を残している。武田明倫も1964年5月に開催されたナムジュン・パイクの演奏会で使用したピアノの残骸を素材に、草月アートセンターにて「開けた音」というテープ音楽を制作し、最後の仕上げは「NHK電子音楽スタジオに夜中に潜り込んでやったんです。当時のNHK電子音楽スタジオはある意味閉鎖的でしたが、我々は割と勝手にやっていたんですよ<sup>20</sup>と述べている。これらの発言から上浪渡を中心として稼働していた当時のNHK電子音楽スタジオは、同時代の創作というものに対して極めて鷹揚な態度をとっていたようである。

1963年9月に20世紀音楽研究所が開催した「第5回 現代音楽祭」では高橋悠治「低音管楽器、低音弦楽器とカウベルのための『アントナン・アルトーへの窓』」ならびに四本のテープのための『冥界の臍』という作品が初演され、器楽と同時演奏されるテープ部分「冥界の臍」はNHK電子音楽スタジオにて制作されていた。この作品は初演の約3週間後にNHKラジオの「現代の音楽」の枠からライブ録音が放送されており、自局での放送を第1の目的としない作品の制作も行われるようになってきたことが分かる。1962年の「フォノジューナ」から試みられ始めた電子音と器楽による創作のスタイルは、63年度の芸術祭における武満徹「独奏ピアノとオーケストラ群のための弧」という作品へと発展した。船越美枝子の演出によるこの作品は多くの資料でNHK電子音楽スタジオの制作であると記されており、NHKにも「放送用テープ／オーケストラ音本番テープ／電子音テープ（本番）」というテープが各1巻ずつ保管されていたようである。しかし、放送された「弧」の録音からは電子音を確認することはできなかった。当初はオーケストラと電子音を合成して放送する予定であったが、電子音楽の部分を武満が気に入らず、最終的にオーケストラ部分のみが放送されたのかもしれない。なお、1963年12月にはNHK電子音楽スタジオで制作された電子音楽が部分的に使用された、大塚修造の演出による音楽物語「星の

クリスマス」（立原えりか作、諸井誠音楽）も放送されている。

## 11. 技法の拡張とスタジオの新設

1963年度のNHK電子音楽スタジオでは上記の作品と並行して「純粹の電子音楽として、長期にわたり、相当な時間と人手<sup>21</sup>を費やして松平頼暁／湯浅譲二／三保敬太郎の作品が制作されていた。1964年3月には松平「トランジェント‘64」と湯浅「ホワイト・ノイズによるプロジェクション・エセムプラスチック」という2曲の電子音楽、そして、放送記念日にはNHK電子音楽スタジオの制作というアナウンスのある「ある女の対話」（伊藤海彦作、小林秀雄音楽）が放送されている。松平は人間の「周波数差弁別能力曲線」に由来した音階を導入し、湯浅は全ての周波数帯域を含むホワイト・ノイズから任意の周波数を切り出す（これは正弦波を積み重ねて作曲するという狭義の電子音楽とは正反対の手法である）ことによって電子音楽の制作に取り組んだ。上浪渡はこうした作品がNHK電子音楽スタジオで生まれた理由として「作曲家個人ではできないのでNHKで機材を揃えて、あとは作曲家自身の個性でものを考える。こういったことをやれって言うんじゃないで、これだけのことをしたからあとはお前さんたちが使って、勝手に好きなことをやってみてくれってことでやって来たのがNHKの電子音楽だったと思うのね<sup>22</sup>と述べている。こうしてNHK電子音楽スタジオにおける電子音楽は作曲家の個性に基づく新しい音楽の世界を切り拓く場となり、1963年度末にはNHK放送会館の3階に電子音楽室が新設されることで、その世界はさらなる展開を見せるようになるのである。

## 12. 新スタジオでの制作

1964年4月にはNHK放送会館の3階に「機器を移設し、一部の機器を新設<sup>23</sup>したNHK電子音楽スタジオが稼働を開始した。1964年5月に発行された音楽新聞では、これを機会に「電子音楽を組織的に研究、制作するために『電子音楽研究会』を近く発足させる予定で、部外の作

19 篠田正浩、吉田剛「篠田正浩インタビュー」『ザキさん 録音監督西崎英雄の人と仕事』録音連絡協議会／西崎英雄氏を偲ぶ会実行委員会、2001/05：55。

20 川崎弘二編著『日本の電子音楽 増補改訂版』愛育社、2009/03：367。

21 日本放送協会編『NHK年鑑‘64』日本放送出版協会、1964/10：193。

22 川崎弘二編著『日本の電子音楽 増補改訂版』愛育社、2009/03：209。

23 佐藤茂「電子音楽制作と自動化への道」『東京だより』1964/05；14（5）：43。

作曲家六~八人を委嘱するとともに、プロデューサー、技術者が一体となって<sup>24</sup>電子音楽に取り組む予定であると記されている。そして、1963年12月に東京のFM放送はステレオでの放送を開始しており、64年5月にはFM放送へと移動した「現代の音楽」の枠から、一柳慧「テープのためのコンサート」と「ライフ・ミュージック」という作品が放送されている。これらの作品の演奏者として野口龍（フルート）、小林健次（ヴァイオリン）、大橋敏成（コントラバス）、青木鈴慕／村岡実（尺八）、小杉武久／武田明倫／刀根康尚（グループ・音楽）の名前が挙げられており、後者は「音楽芸術」誌の1965年8月号に掲載されたNHK電子音楽スタジオの作品リストに掲載され、作曲年は1963年と記載されている。「ライフ・ミュージック」は上記の演奏者たちの電子音を含む即興演奏をコラージュして作成されたと思いき作品で、沈黙の部分も多く、作品としては難解な部類に入るものである。しかし、まだ実用化試験局であったFM放送ではこうした実験性の高い作品も放送できる余地があったものと思われ、放送のチャンスをうかがっていた一柳の作品も放送に漕ぎ着けることができたのかもしれない。

1964年6月には「音楽のおくりもの」の枠から三枝健剛の演出による音楽劇「恐山」（木村嘉長作、石井眞木音楽）と原和孝の演出による「鬼太鼓」（田中大助作、小林秀雄音楽）、そして、「芸術劇場」の枠から田甫一郎の演出による「深い淵」（堀田善衛作、廣瀬量平音楽）が放送されている。「恐山」の放送解説では「人の声を電子音響的に加工変形したもの」が使用されたとアナウンスされており、3作品とも電子的な操作はNHK電子音楽スタジオにて行われたようである。立て続けに劇的作品に電子音を使用したのは、新設されたばかりの電子音楽スタジオを利用して新しい表現を作品に呼び込もうとする機運が高まっていたのかもしれない。また、同月には邦楽番組「現代の日本音楽」において一柳慧「暗黒への招待」（大岡信構成）という番組が放送され、1964年7月に放送された「現代の音楽」の「最近のテープ音楽作品から」という特集ではNHK電子音楽スタジオにて前年度から制作されていた三保敬太郎「ディヴェルティメント」、一柳「暗黒への招待」、湯浅譲二「プロジェクト・エセムプラスチック」が取り上げられており、

「暗黒への招待」もテープ音楽としての枠組みで制作されていたことが分かる。

そして、黛敏郎はオリンピック東京大会組織委員会からの委嘱を受けて、1964年10月に開催された東京オリンピックの開会式のために、NHK電子音楽スタジオにて梵鐘の録音を中心にした「カンパノロジー・オリンピック」という作品を制作した。この作品は国家的なメディア・イベントに電子音楽が使用されるという、その後の日本万国博覧会へと続く流れの先駆けとしても位置づけることができるだろう。なお、諸井誠は1964年の春に酒井竹保という尺八の名手に出会うことで邦楽の世界へと足を踏み入っていた。「立体放送のための日本組曲」や「葵の上」など、邦楽の世界と電子テクノロジーはこれまでもしばしば接近しておいたわけであるが、諸井はNHK電子音楽スタジオにて狂言と電子音響のための「くさびら」という作品を制作し、この作品は1964年11月に「夜のステレオ」という枠から放送されている。

### 13. 多彩な様式

1965年1月に放送された音楽詩劇「日本の冬」の第1部「水仙月の四月」（宮沢賢治作、増田宏三音楽）に、NHK電子音楽スタジオにて制作された電子音を使用されている。資料には「電子音楽室メンバー」による制作であると記載されており、湯浅の「プロジェクト・エセムプラスチック」のために制作されたものと近似した電子音の使用が確認できる。そして、1965年3月の放送記念日特集では柴田南雄の構成による「あすのNHK電子音楽スタジオ」という番組が放送され、それまでにNHKで制作された電子音楽の紹介の他に、大岡信／柴田／武満徹／吉田秀和の出席による座談会も放送されている。1965年の「現代の音楽」においては、4月に一柳慧「空」という1時間にも及ぶ作品が放送され、7月には大塚修造の演出による「対話を伴った交響曲『象形』」（大岡信作、端山貢明音楽）にミュージック・コンクレートが使用され、そして、8月には黛敏郎「テープのための三つの讃」という45分の作品が放送されている。以上の3作品はいずれもNHK電子音楽スタジオにて制作されており、FM放送では実験的な作品だけでなく、長大な作品も制作されるようになっていたのである。

24 無記名「『電子音楽室』が完成 五輪開会式に利用の電子音楽も準備 NHK」『週刊 音楽新聞』1964/05/17:7.

その一方、1965年7月にはイタリア賞参加番組として中坪礼治の演出による「音の四季」（串田孫一作、冨田勲音楽）と、「音楽のおくりもの」の枠から前田直純の演出による音楽詩劇「御者パエトーン」（木原孝一作、諸井誠音楽）が放送され、後者はイタリア賞のグランプリに輝くこととなった（「象形」もイタリア賞への参加候補となった作品である）。また、1965年10月には石井眞木「波紋」という室内アンサンブルとテープのための作品が芸術祭参加番組として放送されており、この作品のテープ部分はNHK電子音楽スタジオにて制作されている。

なお、1965年度のNHK電子音楽スタジオでは「テープ音楽研究会」として入野義朗／武満徹／松下真一による電子音楽の研究が進められていたようである。この3人の作曲家はこの時期にNHK電子音楽スタジオにて作品を制作していないため、NHK側にさまざまなアドバイスを与える役目を担っていたのかもしれない。その例として1965年5月の読売新聞に掲載された記事では「NHK電子音楽スタジオが（略）徹底的に、純音からの音の合成にとりくんだ。そして十年にわたる経験の末、このままのやり方ではどうしてもうまく行かない、という結論に達した。（略）そこで、量子論的な多次元の空間論によって音を考えなければならないところまできたわけなのだ」<sup>25</sup>と記されており、この示唆を与えたのは松下であるものと思われる。また「音楽芸術」誌の1965年8月号にNHK電子音楽スタジオの記事が掲載され、三善清達は当時のNHKにおける電子音楽の制作プロセスについて「一つはあるプロデューサーが、例えばイタリア賞の『オンディエス』を出そうと企画する。そうするとそのプロデューサーが中心になってその下に一人なり二人のアシスタントが附く。それに顧問のような格好で上浪君が横からくっ附く。他方技術面は（略）塩谷宏という人が技術の総元締をしております。（略）もう一つの行き方は、常時電子音楽の研究部門があって、其方は上浪君が中心」<sup>26</sup>であるという証言を残している。柴田南雄は「こうしてNHK電子音楽スタジオが十年の歩みを終

えようとする頃、その生み出す作品の様式は当初では予想もつかぬほど多様なものになっていた」<sup>27</sup>と述べている。すなわち、この時期のNHK電子音楽スタジオでは様式のみならず高いレベルの作品をコンスタントに制作できる体制を整え、さらに新しい方向性へ向かおうともしていた。そこでNHK電子音楽スタジオは次のステップとして電子音楽の創始者、カールハインツ・シュトックハウゼンをスタジオに招き、作品の制作を委嘱することとなるのである。

#### 14. シュトックハウゼンの来日

1966年の大河ドラマは「源義経」であり、武満徹による音楽には電子的変調が施されている部分もある。演出の吉田直哉は「奥山重之助という、武満さんお気に入りのエンジニアを連れてきて、この人に音の処理を全部やらせたわけです。（略）特殊な機械を沢山持ってきて、自分でとんとん接続して、局の制御卓に入る前の段階で、音を加工してしまうんです。昔は、テープにとってから加工していたことを、テープに入れる前にやってしまうわけです」<sup>28</sup>と述べており、タイトなスケジュールの連続ドラマにおいても電子的な表現が試みられていくようになる。

シュトックハウゼンは1966年1月から4月にかけて来日し、NHK電子音楽スタジオにおいて「テレムジーク」と「ソロ」という2つの作品を作曲した。前者は多彩な民族音楽における「時間、歴史（伝統）、空間という三つの異った要素」<sup>29</sup>を、NHK電子音楽スタジオで組み上げた雅楽ネットワークという回路によって統合するというコンセプトによるテープ音楽であり、NHK放送会館3階の第1スタジオにて5トラック再生が行われた。シュトックハウゼンは1956年5月に舞台初演された「少年の歌」において、既に「スピーカーはホール内の聴衆の周囲と頭上に配置され、この作品の音響ポリフォニーのなかへ聴衆を包みこみます」<sup>30</sup>という5トラックでの上演を行っている。NHKでは1962年3月に諸井誠の「夜のむかしこ」が6トラックのテープ・レコーダによって立体上

25 無記名（丹羽）「音の正体を見直す」『読売新聞 夕刊』1965/05/03：4.

26 中村洪介「NHK電子音楽スタジオ」『音楽芸術』1965/08：23（8）：57.

27 柴田南雄「日本の電子音楽の歴史と現状」『季刊トランソニック』1974/10：4：55～56.

28 立花隆『武満徹・音楽創造への旅』文藝春秋、2016/02：265.

29 Karlheinz Stockhausen、磯崎新「伝統と電子音楽」『朝日ジャーナル』1966/04/17：8（16）：99.

30 Karlheinz Stockhausen、山下修司訳「少年の歌 テープの再生」[http://www001.upp.so-net.ne.jp/kst-info/linerNotes/CD03/Gesang\\_der\\_Junglinge\\_pb.html](http://www001.upp.so-net.ne.jp/kst-info/linerNotes/CD03/Gesang_der_Junglinge_pb.html)（2016年12月21日アクセス）



演されて以来、松平頼暁「トランジェント'64」が6トラック、「カンパノロジー・オリンピカ」が4トラックで制作されたという記録はあるが、NHKの電子音楽は放送が大きな目的であったためか、演奏会で多チャンネル上演するまでを前提とした作品はほぼ見当たらない。

もう一つの作品「ソロ」は独奏楽器による演奏が、同じくNHK電子音楽スタジオにて製作した再生遅延装置によってフィードバックされるという作品であり、これらの作品も同スタジオでの上演がなされている。これらの作品は電子音楽をライブで演奏するという方向性、すなわち、テープ音楽の立体再生とライブ・エレクトロニック・ミュージック、という2つの道筋を提示しており、その後の日本の電子音楽のあり方に大きな影響を与えたものと考えられる。そして、ここには作曲家の構想に従って新しい機器を製作した上で作曲が進められるという、NHK電子音楽スタジオならではの制作スタイルも確認することができる。さらに、シュトックハウゼンはスタジオの設備や運営についての助言を残しており、前者については、①機器の配置が機能的でない、②機器の精度が悪いと指摘し、そして、後者については、①作曲家は責任者として不適格、②内外の電子音楽スタジオとの連絡に専念するアシスタントと、スタジオの運営に専念するアシスタントの設置、③技術責任者の設置、④二、三人を一単位とする二つの制作チームの設置、⑤実験用スタッフの設置などのポイントを提案した。これらの助言に対してNHK側は「現状は、専任のスタッフがいない。／その都度、その都度の伝票処理によって臨時にスタッフが作られ、制作が終わると同時に解散してしまう現状である。／そのため継続的な実験、研究、開発は殆ど不可能である」<sup>31</sup>と述べている。この発言から日本特有のテンポラリな制作スタイルは、この時期においても続いていたことが分かる。

## 15. 機器の開発とスタジオの再移転へ

1966年8月にはイタリア賞参加番組として佐々木昭一

郎の演出による「コメット・イケヤ」（寺山修司作、湯浅譲二音楽）が放送され、イタリア賞のグランプリを受賞している。この作品の電子音がNHK電子音楽スタジオで作成されたことを証明する直接的な証拠はないが、1968年にヒュー・デイヴィスがまとめた世界の電子音楽のリスト<sup>32</sup>や、1975年にNHK技師の佐藤茂がまとめた作品リスト<sup>33</sup>にこの作品はNHK電子音楽スタジオの制作として掲載されている。そして、1966年度のテープ音楽研究会は「作曲家黛敏郎、湯浅譲二によって、研究がすすめられた」<sup>34</sup>と記録にあり、67年3月の放送記念日の特集番組として、湯浅「ホワイト・ノイズによるアイコン」と黛「マルチ・ピアノのためのカンパノロジー」が放送された。前者は新しく開発された可変周波数フィルターによってホワイト・ノイズから任意の周波数を切り出し、これを5トラックで空間的に移動させるという斬新な試みが行われており、その完成度の高さから「アイコン」は日本の電子音楽を代表する記念碑的な作品となった。後者はNHK電子音楽スタジオで開発されたマルチ・ピアノという電子楽器のための作品であり、この楽器はピアノの弦に取り付けたピックアップから弦の振動を直接電気信号として取り出し、各種の電子的な操作を付加することのできるという機能を備えていた。なお、1967年の放送記念日にはイタリア賞参加番組として沖野暲の演出による「愛と修羅」（水尾比呂志作、湯浅譲二音楽）が放送され、67年11月には芸術祭参加番組として同じく沖野暲の演出による叙事詩「まんだら」（寺山修司作、湯浅譲二／野沢松之輔音楽）が放送されており、少なくとも後者では「音楽および特殊効果音」<sup>35</sup>がNHK電子音楽スタジオにて制作されているようである。そして、1967年4月にはNHK電子音楽スタジオの「設備総合計画案」がまとめられたことで、シュトックハウゼンからの指摘も含めたスタジオの整備事業が本格化し、67年7月にはNHK放送センターへの移転が決定することとなる。

そして、1968年3月に朝日講堂にて開催された「クロストーク3」という演奏会において、松平頼暁「弦楽四

31 無記名（第二製作部、調整部）「シュトックハウゼンから学んだこと」『シュトックハウゼンに学ぶ「電子音楽スタジオの理想像は」』日本放送協会、1966：7。

32 Hugh Davies. *International Electronic Music Catalog*. MIT Press, 1968.

33 佐藤茂「電子音楽の歩み」『放送技術』1975/10；28（10）：166。

34 日本放送協会編『NHK年鑑'67』日本放送出版協会、1967/09：194。

35 日本放送協会編『NHK年鑑'68』日本放送出版協会、1968/09：211。

重奏とリング変調器のための『分布』という作品が初演され、この作品はNHK電子音楽スタジオの委嘱作品となっている。これはスタジオにてテープを切り貼りするような作品ではなく、器楽の演奏をリアルタイムでリング変調するというライブ・エレクトロニック・ミュージックである。スタジオが直接的に関与しないこうしたケースからも、当時の電子音楽に対するライブ演奏の志向は高まっていたことを確認することができる。1968年の放送記念日には柴田南雄「電子音のためのインプロヴィゼーション」と諸井誠「小懺悔」という2つのNHK電子音楽スタジオ制作作品が放送された。前者では「分周器を利用した音色形成器、電圧・周波数変換器などを試作して連続的で多彩な音色変化」<sup>36</sup>が追求され、作曲家本人による即興的な機器の操作による録音が放送されたが、柴田は「ライヴ演奏も不可能ではなかった」<sup>37</sup>と述べている。後者は「ホラ貝・尺八および三味線を素材

音に使用し、これらの楽器の有する繊細かつ豊かな生音と、その特色を生かした加工音（変調その他による）および原音とは全く異なる音色の加工音等の組合せ」<sup>38</sup>によって作曲されており、黎明期からNHKの電子音楽に関わってきた諸井の技術的／美学的にも集大成的な最後の作品となった。そして、内幸町のNHK放送会館にあったNHK電子音楽スタジオも「小懺悔」を最後に、渋谷のNHK放送センターにて新たなスタートを切ることとなるのである。

## 16. おわりに

本調査によって、NHK電子音楽スタジオにおける創作の歴史的な変遷の一端が明らかになったものと考えている。なお、1968年以後のNHK電子音楽スタジオの創作とその歴史的意義の総括については次号の本紀要に寄稿する予定である。

36 日本放送協会編『NHK年鑑'68』日本放送出版協会。1968/09：211.

37 柴田南雄「日本の電子音楽の歴史と現状」『季刊トランソニック』1974/10；4：57.

38 日本放送協会編『NHK年鑑'68』日本放送出版協会。1968/09：211.

NHK(東京)で制作された主な電子音楽作品

1952

放送日 1952/06/11(水) 22:00-22:30
番組名 音楽のアトリエ
放送 NHKラジオ第2
作品 1)芥川也寸志/マイクログフォンの為のファンタジー
2)Friedrich Silcher/一人の独唱者による三重奏「ローレライ」
時間 1)7'22"
orch
演奏者 2)矢野 漑:独唱
出演者 芥川也寸志,高橋和枝(聞き手)
再放送 1953/10/30(金) 22:15-22:45
演奏会 1956/02/04(土) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション(山薬ホール,東京)
2013/03/10(日) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(神奈川県立近代美術館)有馬純寿:音響
2013/05/06(祝) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(いわき市立美術館,福島)有馬純寿:音響
2013/07/15(祝) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(富山県立近代美術館)有馬純寿:音響
2013/11/02(土) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション/実験工房ピアノ作品演奏会 再現コンサート(北九州芸術劇場小劇場,福岡)榎垣智也:音響
2013/12/14(土) 実験工房ピアノ作品演奏会/ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(世田谷美術館,東京)有馬純寿:音響

1953

放送日 1953/10/30(金) 22:15-22:45
番組名 1)マイクログフォンのための音楽 第8回文部省芸術祭参加番組
放送 NHKラジオ第1
作品 1)富永三郎/マイクログフォンのための音楽 マグナ
2)深井史郎/マイクログフォンのための組曲 一對二/奇妙なワルツ/モデル 中橋の速さで
3)芥川也寸志/マイクログフォンのための幻想曲
時間 1)7'11", 2)2'02"/3'30"/5'49", 3)7'22"
orch
演奏者 1)渡邊暁雄:cond, 朝倉万紀子:S, 小管弦楽団
2)渡邊暁雄:cond, 東京フィルハーモニー交響楽団
3)芥川也寸志:cond, NHKサロアンサンプル
備考 芸術祭参加

1954

放送日 1954/11/03(祝) 12:30-13:00
番組名 立体放送
放送 NHKラジオ第1/第2
作品 音楽物語「あなたにはきこえませんか」
作家 伊藤海彦:作, 山田和男:音楽
演出等 増井敏二:演出
演奏者 山田和男:cond, 東京放送合唱団, 藤原歌劇団合唱部, 東京フィルハーモニー交響楽団
出演者 木村 功(語り手), 田村 毅(テツラン), 木下喜久子(姉さん), 加藤春哉(駒黒), 木崎 豊(はんの木), 土方弘(からまつ), 加藤玉枝(狐), 姫田慶子(狐の子), 黒木三郎(熊), 山内雅人(リス), 東京放送劇団
備考 芸術祭参加
作品 入野義朗/(不明)
備考 1)音楽之友1955年4月号56頁の情報による。

1955

放送日 1955/11/25(金)
番組名 NHKニュース
放送 NHKテレビ
作品 諸井誠/資料第1号(実験作品)
演出等 塩谷 宏:技術
備考 収録は1955年5月までに行われたものと考えられる。

放送日 1955/03/20(日) 19:30-20:00
番組名 放送30周年記念特別番組
放送 NHKラジオ第2
作品 音の四季 現実音と音楽による交響詩 第1章 春/第2章 夏/第3章 秋/第4章 冬
時間 29'10"
作家 早坂文雄, 佐藤慶次郎, 武満 徹, 鈴木博義:音楽
演出等 吉田直哉:演出, 岩淵東洋男/松本保男/川崎 清/東京放送効果団:現実音, 森 重清:調整, 遠藤幸男:録音
演奏者 NHKサロアンサンプル
出演者 中村定衛(語り)
再放送 2014/06/28(土) 21:00-22:00 クラシックの迷宮 早坂文雄 生誕100年 NHKのアカイブスから(NHKラジオFM)
2014/06/30(月) 10:00-11:00 クラシックの迷宮 早坂文雄 生誕100年 NHKのアカイブスから(NHKラジオFM)

放送日 1955/07/20(水) 13:05-14:00
番組名 婦人の時間 海の記念日特集
放送 NHKラジオ第1
作品 1)神近市子, 西 清子/話題を探る 再び春巻処罰法案をめぐって
2)音による詩「海の幻想」 第1部 海の静けさ/第2部 海の恐れ/第3部 海の悲しみ/第4部 海のよろこび
時間 2)22'32"
作家 2)秋山邦晴/武満 徹:構成
演出等 2)吉田直哉:演出, 森 重清/塩谷 宏/吉井幸次:調整技術, 遠藤幸男:録音技術
出演者 2)成瀬昌彦, 山内雅人, 鎌田弥恵, 東儀教子, ぶどうの会

放送日 1955/10/29(土) 13:05-14:00
番組名 婦人の時間 放送芸能祭特集
放送 NHKラジオ第1
作品 1)マイクログフォンのための詩集 夜の海/蛙の伝令/るる舞送/落ち葉/河童と蛙/鬼/祈りの歌/誕生祭
2)エッサラ母さんホワイヤ
時間 1)23'04"
作家 1)草野心平:作
2)野井敏二:作, 服部 正:作曲指導
演出等 1)吉田直哉:演出, 星野秀夫/森 重清:調整技術, 堀井 篤:録音技術
演奏者 1)小野 顕:musical saw
2)NHKサロアンサンプル
出演者 1)草野心平, 横森 久, 滝田裕介, 竹内 亨, 中野伸逸, 川上夏代, 杉山徳子, 牧よし子, 秋好はるみ, 俣優彦, ぶどうの会
2)七尾伶子, 田村 毅
備考 放送芸能祭参加

放送日 1955/11/03(祝) 11:05-11:50
番組名 立体音楽堂
放送 NHKラジオ第1/第2
作品 立体音楽物語「新しい星の生れる時」
作家 伊藤海彦:作, 林光:音楽
演出等 増井敏二:演出, 東京放送効果団
演奏者 林光:cond, 栗本兼子:歌, 二期会合唱団, 東京フィルハーモニー交響楽団
出演者 村上冬樹(語り手), 藤田 直(修一), 関弘子(スラン), 桑山正一(バツウ), 黒柳徹子(クルル), 加藤春哉(コマ), 久保保夫(尾高氏), 尾崎勝子(尾高婦人), 幸田弘子(ピサ), 田中礼子(魚の子), 東京放送劇団
備考 芸術祭参加

放送日 1955/11/27(日) 11:00-11:25
番組名 立体音楽堂 立体音楽堂1周年記念特集 最終回 第10回文部省芸術祭参加
放送 NHKラジオ第1/第2
作品 柴田南雄/立体放送のためのミュージック・コンクレート
時間 主題:4'34"/第一変奏:4'45"/第二変奏:4'47"/第三変奏:3'38"/コード:1'44"
演出等 NHK音楽課:企画, 増井敏二:演出, 西畑作太郎:調整, 遠藤幸男:録音, 三沢敏男:効果, 前田直純:技術
演奏者 東京打楽器グループ
再放送 1976/03/26(金) 09:00-10:40 家庭音楽鑑賞 なつかしの音楽録音から 5(NHKラジオFM)三善清達:話
1994/08/15(月) 23:10-25:00 限りなき音の世界を求めて NHK電子音楽スタジオの40年 1 東京1950電子音楽, ミュージック・コンクレートの実験的な時代(NHKラジオFM) Loubet Emmanuel:解説
演奏会 1956/02/04(土) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション(山薬ホール,東京)
1957/09/14(土) 作曲家の個展 第8回 柴田南雄

(ブリジストン美術館,東京)
1955/10/07(土) 音・電子メディア 日独作曲家による先駆者たち 2 オーディオ・コンファレンス 日本の電子音楽の展開(ドイツ文化会館ホール,東京)
2013/03/10(日) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(神奈川県立近代美術館)有馬純寿:音響
2013/05/06(祝) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(いわき市立美術館,福島)有馬純寿:音響
2013/07/15(祝) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(富山県立近代美術館)有馬純寿:音響
2013/11/02(土) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション/実験工房ピアノ作品演奏会 再現コンサート(北九州芸術劇場小劇場,福岡)榎垣智也:音響
2013/12/14(土) 実験工房ピアノ作品演奏会/ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(世田谷美術館,東京)有馬純寿:音響
備考 芸術祭奨励賞受賞

放送日 1955/11/27(日) 20:05-20:30
番組名 電子音楽 芸術祭参加作品
放送 NHKラジオ第2
作品 1)黛敏郎/素数の比系列による正弦波の音楽
2)黛敏郎/素数の比系列による変調波の音楽
3)黛敏郎/矩形波と鋸歯状波のためのインヴェンション
時間 1)4'11", 2)5'52", 3)4'07"
演出等 上浪 渡:プロデューサー, 高辻 土/塩谷 宏:技術, 藤田 尚:機器制作
出演者 属 啓成:解説
再放送 2)1965/03/21(日) 10:00-12:00 あすのNHK電子音楽スタジオ(NHKラジオFM)柴田南雄:構成, 大岡 信/柴田南雄/武満 徹/吉田秀和/座談会
2)1965/04/11(日) 16:30-18:00 あすのNHK電子音楽スタジオ(NHKラジオFM)柴田南雄:構成, 大岡 信/柴田南雄/武満 徹/吉田秀和:座談会

1982/03/20(土) 23:05-23:55 電子音楽スタジオ手作りからコンピュータまで 1(NHKラジオFM)上浪 渡/黛敏郎:解説
1994/08/15(月) 23:10-25:00 限りなき音の世界を求めて NHK電子音楽スタジオの40年 1 東京1950電子音楽, ミュージック・コンクレートの実験的な時代(NHKラジオFM) Loubet Emmanuel:解説
2002/05/19(日) 18:00-18:50 現代の音楽 NHK電子音楽スタジオ作品から(NHKラジオFM)西村朗:解説
1)2007/11/25(日) 14:00-18:50 現代の音楽 放送50年 この半世紀を振り返る(NHKラジオFM)西村朗/白石美雪:解説 桜抜梓

演奏会 1956/02/04(土) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション(山薬ホール,東京)
3)1957/10/31(水) 二十世紀トップ・コンサート(梅田コマ・スタジアム,大阪)村上三郎/黒いパネル:舞台美術
2005/08/18(木) Futura 2005 Horizon Japon(Espace Soubeyran, Crest, France)
1)2009/07/11(土) 第25回 東京の夏 音楽祭 2009 日本の電子音楽(草月ホール,東京)有馬純寿:音響
2011/08/28(火) JCMR KYOTO Vol.5 黛敏郎の電子音楽全曲上演会(京都芸術センター)能美亮士:音響
2013/03/10(日) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(神奈川県立近代美術館)有馬純寿:音響
2013/05/06(祝) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(いわき市立美術館,福島)有馬純寿:音響
2013/07/15(祝) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(富山県立近代美術館)有馬純寿:音響
2013/11/02(土) ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション/実験工房ピアノ作品演奏会 再現コンサート(北九州芸術劇場小劇場,福岡)榎垣智也:音響
2013/12/14(土) 実験工房ピアノ作品演奏会/ミュージック・コンクレート 電子音楽 オーディション 再現コンサート(世田谷美術館,東京)有馬純寿:音響
備考 芸術祭参加

1956

放送日 1956/08/11(土) 13:05-14:00
番組名 婦人の時間
放送 NHKラジオ第1
作品 1)音のマンガ「倉庫番のケンちゃん耳の冒険」
2)ホームソング「小鳥ならば」(池田智恵子:指導)
時間 39'17"

**作家** | 1) 冨田 勲: 音楽  
**演出等** | 1) 吉田直哉: 演出  
**演奏者** | 1) 吉木高之/神山幸雄: ジャズ演奏, 東京放送合唱団, NHKサロアンサンブル  
**出演者** | 1) 加藤治子(ケンちゃん/カリ助), 竜田裕介, 東京放送児童劇団  
**再放送** | 2016/12/30 (金) 14:00-15:50 三人の作曲家が遺したものの 宇野誠一郎×小森昭宏×冨田勲(NHKラジオFM) 濱田高志: 企画/進行

---

**放送日** | 1956/08/14 (火) 21:00-22:00  
**番組名** | 音楽のおくりもの  
**放送** | NHKラジオ第2  
**作品** | 戸田邦雄/歌劇「あけみ」  
**作家** | 有賀文男: 作  
**演出等** | 佐久間茂高: 演出  
**演奏者** | 森正: cond, ラモール室内楽団 ※1956/08/07公開録音  
**出演者** | 柴田喜代子(たみ子), 戸田敏子(ゆり), 川崎静子(あけみ), 柴田睦隆(黒田), 秋元雅一郎(竜岡), 大橋国一(鉄)

---

**放送日** | 1956/11/20 (火) 21:30-22:00  
**番組名** | 音楽物語「瓶の中の世界」 第11回芸術祭参加作品  
**放送** | NHKラジオ第2  
**作品** | 音楽物語「瓶の中の世界」  
**時間** | 28' 45" ※改訂版  
**作家** | 駒田信二: 作, 長谷川良夫: 音楽  
**演出等** | 三枝健剛: 演出, 三沢敏男/東京放送効果団: 効果, 田中茂良: 技術  
**演奏者** | 岩城宏之: cond, シャンブル・サンフォニエット  
**出演者** | 山本安英(語り手), 加藤道子(語り手) ※改訂版  
**再放送** | 1957/10/08 (火) 21:30-22:00 音楽物語「瓶の中の世界」イタリヤ放送協会賞受賞作品(NHKラジオ第1)  
| 1964/10/07 (水) 21:00-22:00 音楽のおくりもの ダイアモンド・シリーズ1(NHKラジオ第2)  
| 1976/03/26 (金) 09:00-10:40 家庭音楽鑑賞 なつかしの音楽録音から 5(NHKラジオFM) 三善清遠: 解説  
**演奏会** | 1999/09/29 (水) Concert: 20-21 日本の作曲21世紀へのあゆみ 1999 第7回 テープ音楽の始動(紀尾井ホール, 東京)  
**備考** | 芸術祭参加/1957年6月に改訂/イタリヤ賞 イタリヤ放送協会賞受賞

---

**放送日** | 1956/11/23 (金) 12:15-13:00  
**番組名** | 特集番組 立体放送のための日本組曲 第11回芸術祭参加  
**放送** | NHKラジオ第1/第2  
**作品** | 1) 芝 祐久/第1部 序 雅楽組曲「春」 あけぼの/水車/胡蝶乱舞  
| 2) 唯是震一/第2部 破 三つの小品 音音/箏と室内管弦楽のための六段/箏と打楽器のための小曲  
| 3) 芝 祐久, 唯是震一/第3部 急 ミュージック・コンクレート 春/夏/秋  
**時間** | 1) 4' 50"/4' 55"/4' 32", 2) 4' 33"/8' 49"/1' 12"  
**演出等** | NHK音楽部: 制作, 3) NHK制作陣: 制作  
**演奏者** | 1) 芝 祐久: cond, 新音楽研究会, 宮城社中  
| 2) 外山雄三: cond, 唯是震一: 箏, 福原英次: 笛, 望月太喜之助社中, フィルハーモニア室内楽団  
**備考** | 芸術祭参加

---

**放送日** | 1956/11/27 (火) 21:30-22:00  
**番組名** | 電子音楽「七のヴァリエーション」 第11回芸術祭参加特別番組  
**放送** | NHKラジオ第2  
**作品** | 諸井 誠, 黛敏郎/七のヴァリエーション  
**時間** | 第一変奏: 7' / 第二変奏: 14' / 第三変奏: 28' / 第四変奏: 56' / 第五変奏: 1' 52" / 第六変奏: 3' 44" / 第七変奏: 7' 24"  
**制作** | NHK音楽部/NHK技術部/NHK技術研究所: 制作  
**演出等** | 三善清遠/後藤和彦: 演出, 高辻 士/稲村 清/塩谷 宏/川島 元/安藤由典: 技術  
**出演者** | 柴田南雄: 解説  
**再放送** | 1957/01/01 (火) 19:00-19:30 音楽鑑賞 電子音楽その1 日本の電子音楽(NHKラジオ第2) 諸井三郎/諸井 誠/上原栄子/柴田南雄: 出演  
| 1965/03/21 (日) 10:00-12:00 あすのNHK電子音楽スタジオ(NHKラジオFM) 柴田南雄: 構成, 大岡 信/柴田南雄/武満 徹/吉田秀和: 座談会  
| 1965/04/11 (日) 16:30-18:00 あすのNHK電子音楽スタジオ(NHKラジオFM) 柴田南雄: 構成, 大岡 信/柴田南雄/武満 徹/吉田秀和: 座談会  
| 1968/08/11 (日) 23:05-23:55 現代の音楽 電子音楽探訪 3日本の作品から(NHKラジオFM) 黛敏郎/諸井 誠: 話  
| 1973/11/25 (日) 22:20-23:05 現代の音楽 新しい音の世界 3電子音楽の誕生(NHKラジオFM) 上浪 渡: 話

---

| 1976/03/26 (金) 09:00-10:40 家庭音楽鑑賞 なつかしの音楽録音から 5(NHKラジオFM) 三善清遠: 解説  
| 1980/01/30 (火) 13:00-15:00 音楽のすべて 現代日本の作品から 2(NHKラジオFM) 丹羽正明: 話  
| 1988/05/03 (火) 15:30-16:30 NHK電子音楽スタジオ作品集 1(NHKラジオFM) 上浪 渡: 解説 ※第7変奏のみ  
| 1994/08/15 (月) 23:10-25:00 限りなき音の世界を求めて NHK電子音楽スタジオの40年 1 東京1950電子音楽、ミュージック・コンクレートの実験的な時代(NHKラジオFM) Loubet Emmanuel: 解説  
| 2000/08/27 (日) 18:00-18:50 現代の音楽 日本の作曲 戦後世代の台頭 3(NHKラジオFM) 白石美雪: 解説  
**演奏会** | 1957/03/28 (木) アルス・ノヴァ 第22回 第一生命ホール音楽鑑賞会 第1回現代音楽の夕(第一生命ホール, 東京) 高辻 士: 再生, 北代省三: 美術, 今井直次: 照明  
| 1957/05/15 (水) アルス・ノヴァ 前衛芸術の夕 電子音楽とミュージック・コンクレートの会(カスベル講演場, 大阪) 北代省三: 美術, 今井直次: 照明  
| 1957/08/12 (月) 第1回 現代音楽祭 電子音楽「七のヴァリエーション」について(星野温泉ホール, 長野)  
| 1957/08/19 (月) 実験工房のメンバーによるサマー・エクスヒビション レコードコンサート(風月堂, 東京)  
| 1957/10/13 (日) 音楽学会 第8回 全国大会 研究演奏会 第3部 具象音楽と電子音楽(東京芸術大学音楽堂)  
| 1999/09/29 (水) Concert: 20-21 日本の作曲21世紀へのあゆみ 1999 第7回 テープ音楽の始動(紀尾井ホール, 東京)  
| 2009/07/11 (土) 第25回 東京の夏 音楽祭 2009 日本の電子音楽(草月ホール, 東京) 有馬純寿: 音響  
| 2011/08/28 (火) JCMR KYOTO Vol. 5 黛敏郎の電子音楽全曲上演会(京都芸術センター) 能美亮士: 音響 ※第7変奏のみ  
| 2014/05/11 (日) 実験工房 in 新開地 電子音楽コンサート-関西初の電子音楽演奏会(1957) 再現(神戸アートビレッジセンター, 兵庫) ※第7変奏のみ  
**備考** | 芸術祭参加

---

### 1957

**放送日** | 1957/03/20 (水) 22:45-23:00  
**番組名** | 放送記念日特集  
**放送** | NHKラジオ第1  
**作品** | 音響構成「現代」 とげとげしい風景/不安と恐怖/園への郷愁/さきまなうたごえ/リズム・リズム・リズム!  
**作家** | 武満 徹: 音楽  
**演出等** | 東京放送効果団

---

**放送日** | 1957/11/27 (水) 21:30-22:00  
**番組名** | 葵の上 第12回芸術祭音楽部門参加番組  
**放送** | NHKラジオ第1  
**作品** | 黛敏郎/葵の上  
**時間** | 27' 16"  
**演出等** | NHK電子音楽スタジオ: 制作, 上浪 渡: 演出  
**演奏者** | 親生寿夫, 親生静夫, 宝生 野村万作  
**再放送** | 1965/03/21 (日) 10:00-12:00 あすのNHK電子音楽スタジオ(NHKラジオFM) 柴田南雄: 構成, 大岡 信/柴田南雄/武満 徹/吉田秀和: 座談会  
| 1994/08/15 (月) 23:10-25:00 限りなき音の世界を求めて NHK電子音楽スタジオの40年 1 東京1950電子音楽、ミュージック・コンクレートの実験的な時代(NHKラジオFM) Loubet Emmanuel: 解説  
| 1997/07/27 (日) 21:30-22:30 現代の音楽(NHKラジオFM) 白石美雪: 解説  
**演奏会** | 1958/07/26 (土) 作曲家の個展 第21回 電子音楽とミュージック・コンクレートのオーディション(プリチストン美術館, 東京)  
| 1960/06/24 (金) 武智鉄二作品発表会(産経ホール) 黛敏郎: 構成, 武智鉄二: 演出  
| 1995/10/07 (土) 音・電子メディア 日独作曲家による先駆者たち 2 オーディオ・コンファレンス 日本の電子音楽の展開(ドイツ文化会館ホール, 東京)  
| 2011/08/28 (火) JCMR KYOTO Vol. 5 黛敏郎の電子音楽全曲上演会(京都芸術センター) 能美亮士: 音響  
**備考** | 芸術祭参加

---

**放送日** | 1957/12/01 (日) 11:00-11:30  
**番組名** | 立体音楽堂 芸術祭参加作品  
**放送** | NHKラジオ第1/第2  
**作品** | 男の死 立体放送のためのカンタータ・ディアローグ

**時間** | 29' 20"  
**作家** | 谷川俊太郎: 作, 武満 徹: 音楽  
**演出等** | 増井敏二: 演出, 東京放送効果団  
**演奏者** | 岩城宏之: cond, 浜田尚子: S, 友竹正則: Br, 東京放送合唱団, 二期会合唱団, シャンブル・サンフォニエット  
**出演者** | 岸田今日子(ボリタリ), 水島 弘(ヒカリ), 日下武史(ハット), 小池朝雄(グラント), 松宮五郎(プレナツ), 井関一, 大久保ともこ(ジュエニタ), 他, 東京放送劇団

---

**作品** | 武満 徹/空、馬そして死  
**時間** | 3' 30"  
**再放送** | 1973/12/02 (日) 22:20-23:05 現代の音楽 新しい音の世界 4 新しい音色と素材の探求(NHKラジオFM) 上浪 渡: 話  
| 1988/05/03 (火) 15:30-16:30 NHK電子音楽スタジオ作品集 1(NHKラジオFM) 上浪 渡: 解説  
| 1994/08/15 (月) 23:10-25:00 限りなき音の世界を求めて NHK電子音楽スタジオの40年 1 東京1950電子音楽、ミュージック・コンクレートの実験的な時代(NHKラジオFM) Loubet Emmanuel: 解説  
| 2002/06/16 (日) 18:00-18:50 現代の音楽(NHKラジオFM) 西村 朗: 解説  
**演奏会** | 1958/07/26 (土) 作曲家の個展 第21回 電子音楽とミュージック・コンクレートのオーディション(プリチストン美術館, 東京) ※タイトルは「ディアローグ」  
| 1995/10/07 (土) 音・電子メディア 日独作曲家による先駆者たち 2 オーディオ・コンファレンス 日本の電子音楽の展開(ドイツ文化会館ホール, 東京)  
| 2000/01/08 (土) 武満 徹の音の河(新潟市民芸術文化会館) 有馬純寿: 音響  
**備考** | 「男の死」で使用されたミュージック・コンクレートをそのまま接続して独立した作品にしたもの。

---

### 1959

**放送日** | 1959/08/02 (日) 18:00-19:00 ※放送開始日  
**番組名** | タケのひととき  
**放送** | NHKラジオFM  
**作品** | 諸井 誠/テーマ音楽  
**時間** | 1' 39"  
**演出等** | NHK電子音楽スタジオ: 制作  
**備考** | 番組のテーマ音楽

---

**放送日** | 1959/11/22 (日) 12:30-13:00  
**番組名** | 現代の音楽 芸術祭参加作品  
**放送** | NHKラジオ第2  
**作品** | 諸井 誠/ビュタゴラスの星 声, 電子音, 室内楽のための 第1部 沈黙の環/第2部 黒い笑ひ/第3部 星の死  
**時間** | 10' 06"/10' 20"/6' 50"  
**作家** | 石原達二: 詩  
**演出等** | NHK電子音楽スタジオ: 制作, 樋渡徹郎: プロデューサー, 塩谷 宏/二階誠也/高柳裕雄: 技術  
**演奏者** | 岩城宏之: cond, 平岡精二: vib, 八木正生: pf, 竹前聡子: cemb, 本荘玲子: ondes martenot, 小野寺武司: bongo, 猪俣 猛: dr, 金井英人/赤星 晃: cb, 東京混声合唱団  
**出演者** | 水島 弘/喜多道枝/森 邦夫(語り手)  
**再放送** | 1965/03/21 (日) 10:00-12:00 あすのNHK電子音楽スタジオ(NHKラジオFM) 柴田南雄: 構成, 大岡 信/柴田南雄/武満 徹/吉田秀和: 座談会  
| 1965/04/11 (日) 16:30-18:00 あすのNHK電子音楽スタジオ(NHKラジオFM) 柴田南雄: 構成, 大岡 信/柴田南雄/武満 徹/吉田秀和: 座談会  
**演奏会** | 1962/09/30 (日) 健 健次個展(都市センターホール, 東京) 吉田謙吉: 衣装/装置

---

**放送日** | 1959/11/28 (土) 21:00-22:00  
**番組名** | 音楽詩劇 オンデーヌ 芸術祭参加作品  
**放送** | NHKラジオ第2  
**作品** | 音楽詩劇「オンデーヌ」  
**時間** | 43' 54" ※改訂版  
**制作** | NHK電子音楽スタジオ  
**作家** | Motte Fouque: 原作, 岸田幹子: 作詩/構成, 三善 晃: 音楽  
**演出等** | NHK電子音楽スタジオ: 制作, 三善清遠/星 章夫/大竹邦昌: 演出, 中島高憲: 効果, 鈴木椿一郎/浅見啓明/佐々木喜七: 技術, NHK電子音楽スタジオ: 電子音制作  
| 改訂版/NHK電子音楽スタジオ: 制作, 三善清遠/樋渡徹郎/星 章夫/大竹邦昌: 演出, 鈴木椿一郎/浅見啓明/佐々木喜七/二階誠也: 技術  
**演奏者** | 森正: cond, 友竹正則: Br, 本荘玲子: ondes martenot, 二期会合唱団, ラジオ管弦楽団  
| 改訂版/森正: cond, 友竹正則: Br, 本荘玲子: ondes martenot, 東京混声合唱団, ラジオ管弦楽団  
**出演者** | 山本安英(語り手), 水島 弘(水界の王), 小山田宗徳



作品 諸井誠/鑑業、医学、科学実験、歴史遺産  
時間 3'20", 2'23", 2'55", 3'28"  
演出等 NHK電子音楽スタジオ/制作  
備考 バック音楽/第2集に収録

1962

放送日 1962/06/09 (土) 22:00-22:30  
番組名 日本の美  
放送 NHK教育テレビ  
作品 1)日本の文様  
2)岡田譲/解説「紋章と染織文様」  
時間 1)22'55"  
作家 1)岡田譲/山辺知行:監修,武満徹:作曲,杉浦康平/粟津潔:美術,花田紋正:切紋  
演出等 1)吉田直哉:構成,岩井禰周:撮影,稲村清:録音,大高晋:編集  
再放送 1962/09/20 (木) 15:00-15:30 日本の美(NHK総合テレビ)※再放送  
1)2002/03/03 (日) 23:50-24:50 NHKアーカイブス 伝えられるかたち(NHK総合テレビ)  
1)2002/03/04 (月) 00:50-01:50 NHKアーカイブス 伝えられるかたち(NHK総合テレビ)  
演奏会 1)1962/08/14 (火) SACの会 実験映画招待試写会(草月会館ホール,東京)  
1)1964/06/10 (水) 草月シネマテーク第9回 ヘルギー-王立フィルム・アーカイヴ国際実験映画祭特別賞受賞作品1964(草月会館ホール,東京)  
備考 1)第3回ヘルギー-王立フィルム・アーカイヴ国際実験映画祭特別賞受賞

放送日 1962/07/15 (日) 11:00-11:55  
番組名 立体音楽堂  
放送 NHKラジオ第1/第2  
作品 立体音楽詩「海の怪奇」  
作家 伊藤海彦:作,佐藤眞:作曲  
演出等 前田直純:演出,東京放送効果団  
演奏者 若杉弘:cond,東京混声合唱団,東京フィルハーモニー交響楽団  
出演者 佐藤英夫(語り手),文学座

放送日 1962/11/05 (月) 21:00-22:00  
番組名 三つの電子音楽1962 芸術祭参加  
放送 NHKラジオ第2/NHKラジオFM  
作品 1)諸井誠/ヴァリエテ 電子音のみによる作品  
2)高橋悠治/フォノジェヌ 電子音と室内楽による作品  
3)一柳慧/バラレレ・ミュージック 電子音と声による作品  
時間 1)7'10", 2)9'28", 3)9'08"  
演出等 NHK電子音楽スタジオ:制作,樋渡徹郎:演出,1)高柳裕雄/2)佐藤茂/3)佐々木喜七:技術  
演奏者 2)若杉弘:cond, NHKラジオ・アンサンブル  
3)小野洋子/小杉武久/豊沢和孝:声  
出演者 諸井誠,高橋悠治,一柳慧,柴田南雄:解説/対談  
再放送 1)1988/05/03 (火) 15:30-16:30 NHK電子音楽スタジオ作品集 1(NHKラジオFM)上浪渡:解説  
2)1994/08/15 (月) 23:10-25:00 限りなき音の世界を求めて NHK電子音楽スタジオの40年 1 東京1950 電子音楽、ミュージック・コンクレートの実験的な時代(NHKラジオFM) Loubet Emmanuel:解説  
2.3)1994/08/16 (火) 23:10-25:00 限りなき音の世界を求めて NHK電子音楽スタジオの40年 2 60年代の電子音楽(NHKラジオFM)

演奏会 1.2.3)1963/12/22 (日) 第1回 大阪の秋 国際現代音楽祭 第2夜 テープ音楽(ナショナル電化センター,大阪)  
1)1964/06/15 (月) Nuova Consonanza II Festival (Teatro delle Arti, Rome)  
3)1965/04/25 (日) Nuova Consonanza III Festival (Teatro delle Arti, Rome)  
3)1995/10/07 (土) 音・電子メディア 日独作曲家による先駆者たち 2 オーディオ・コンファレンス 日本の電子音楽の展開(ドイツ文化会館ホール,東京)  
2.3)2009/07/11 (土) 第25回 東京の夏 音楽祭 2009 日本の電子音楽(草月ホール,東京)有馬純寿:音響

備考 芸術祭参加

放送日 1962/11/25 (日) 11:00-11:45  
番組名 立体音楽堂 立体音楽物語「大男の庭」 芸術祭参加  
放送 NHKラジオ第1/第2  
作品 立体音楽物語「大男の庭」  
時間 38'32"  
作家 Oscar Wilde:原作(我儘な大男),岩田宏:作,別宮真

雄:音楽  
演出等 三善清遠:演出,浅見啓明:技術,NHK電子音楽スタジオ:効果  
演奏者 森正:cond,高橋悠治:ondes martenot,東京放送児童合唱団,東京混声合唱団,NHK交響楽団  
出演者 立岡光(語り手),水島弘(大男),広村芳子(少年),劇団新鋭  
再放送 1964/10/28 (水) 21:00-22:00 音楽のおくりもの(NHKラジオ第2)  
2015/05/30 (土) 22:00-23:00 クラシックの迷宮 別宮真雄の音楽物語「大男の庭」 NHKのアーカイブスから(NHKラジオFM)片山杜秀:解説  
2015/06/01 (月) 10:00-11:00 クラシックの迷宮 別宮真雄の音楽物語「大男の庭」 NHKのアーカイブスから(NHKラジオFM)片山杜秀:解説  
備考 芸術祭参加

1963

放送日 1963/07/28 (日) 10:00-11:00  
番組名 立体音楽堂 イタリヤ賞ステレオ音楽部門参加  
放送 NHKラジオ第1/第2  
作品 1)立体放送のための音楽詩「ハイランドの乙女」ワーズワース詩集より  
2)高城重躬/最近のステレオレコードの話題から  
作家 1)William Wordsworth:詩,内村直也:詩/構成,佐藤眞:作曲  
演出等 1)原和孝:演出,浅見啓明:技術,甲田常雄/東京放送効果団:効果  
演奏者 1)森正:cond,東京混声合唱団,NHK交響楽団  
出演者 1)北村和夫(私),姫田慶子(ルーシー・グレイ),山田清(父),加藤玉枝(母),若山弦蔵(風),加藤道子(眠り),黒柳徹子(小鳥)

作品 高橋悠治/低音音楽器、低音弦楽器とカウベルのための「アントナン・アルトへの窓」ならびに4本のテープのための「冥界の罅」  
作家 Antonin Artaud:詩  
演出等 NHK電子音楽スタジオ:テープ制作  
演奏会 1963/09/05 (木) 第5回 現代音楽祭 第1日 現代日本作品の夕(京都会館 第2ホール)一柳慧:cond,大橋敏成/道井洵:cb,柿島敦:c,斎藤明:b-cl,越康寿:c-fg,熊谷弘:perc  
1963/09/29 (日) 18:30-19:00 現代の音楽 第5回 現代音楽祭から 現代日本作品の夕(NHKラジオ第2)※9月5日の録音  
1963/10/12 (土) 草月コンテンポラリー・シリーズ22演奏家集団 New Direction 第3回演奏会(草月会館ホール,東京)※初演時と演奏者は同じ。演奏時間12'40"  
備考 舞台初演された

放送日 1963/09/26 (木) 21:00-22:00  
番組名 海外ラジオドラマ特集 第3夜  
放送 NHKラジオ第2/NHKラジオFM  
作品 NHKにきらめくナジャ  
時間 52:15  
作家 André Breton:原作(ナジャ),NHK放送文化研究所:訳,木原孝一:脚色,湯浅譲二:音楽

演出等 沖野 暉:演出,大木本実/東京放送効果団:効果,浅見啓明:技術  
演奏者 東京混声合唱団,オルケストラ'62  
出演者 下元 勉(アルタン),加藤道子(ナジャ),前田昌明/藤野節子/金井 大/鎗田順吉(声),新人会,背い実の会,木原孝一:解説

再放送 1989/10/08 (日) 22:20-23:30 ラジオ名作劇場 海外ラジオドラマ・アンコール 1(NHKラジオ第2)白坂道子/久保博:解説  
放送日 1963/11/10 (日) 21:30-22:00  
番組名 独奏ピアノとオーケストラ群のための弧 昭和38年度芸術祭音楽部門参加  
放送 NHKラジオ第1/第2  
作品 武満徹/独奏ピアノとオーケストラ群のための「弧」 第1部 Pile/第3部 Your Love and The Crossing  
時間 第1部 7'07"/第3部 8'32"  
演出等 船越美枝子:演出,塩谷 宏/高柳裕雄:技術  
演奏者 森正:cond,高橋悠治:pf/opreator,フィルハーモニー管弦楽団  
備考 芸術祭参加/NHK電子音楽スタジオ委嘱

放送日 1963/12/25 (水) 21:00-22:00  
番組名 音楽のおくりもの  
放送 NHKラジオ第2FM放送あり  
作品 1)音楽物語「星のクリスマス」  
2)秋元道雄/パイアオルガン演奏  
作家 1)立原えりか:作,諸井誠:音楽  
演出等 1)大塚修造:演出,NHK電子音楽スタジオ:電子音楽

放送日 1963/12/25 (水) 21:00-22:00  
番組名 音楽のおくりもの  
放送 NHKラジオ第2FM放送あり  
作品 1)音楽物語「星のクリスマス」  
2)秋元道雄/パイアオルガン演奏  
作家 1)立原えりか:作,諸井誠:音楽  
演出等 1)大塚修造:演出,NHK電子音楽スタジオ:電子音楽

演奏者 1)荒合俊治:cond,本荘玲子:ondes martenot,フランス歌曲研究会:合唱,東京放送児童合唱団,フィルハーモニー管弦楽団  
出演者 1)横森久(語り手),清水 鞠(ジロ),杉山徳子(おかあさん),小沢栄太郎(サンタクロース),山本 清(宇宙パロールの警官)

1964

放送日 1964/03/15 (日) 18:30-19:00  
番組名 現代の音楽 新しいテープ音楽作品から  
放送 NHKラジオ第2  
作品 松平頼暁/トランジェント'64  
時間 19'54"  
演出等 NHK電子音楽スタジオ:制作,竹越治夫:演出,佐藤茂:技術  
出演者 松平頼暁:解説  
演奏会 1964/10/05 (月) 第2回 大阪の秋 国際現代音楽祭 第3夜 テープ音楽(毎日文化ホール,大阪)  
1984/12/22 (土) 松平頼暁作品コンサート シリーズ No.3 電子音楽(ライヴエレクトロニクスを含む)を集めて(東京文化会館小ホール)  
1995/10/07 (土) 音・電子メディア 日独作曲家による先駆者たち 2 オーディオ・コンファレンス 日本の電子音楽の展開(ドイツ文化会館ホール,東京)

放送日 1964/03/22 (日) 23:05-23:25  
番組名 ラジオパレード  
放送 NHKラジオ第1  
作品 ある女の対話  
時間 17'05"  
演出等 伊藤海彦:作,小林秀雄:音楽  
NHK電子音楽スタジオ:制作  
斎藤 健/小林秀雄:演奏  
出演者 岩崎加根子(女),武内享(男)

放送日 1964/03/29 (日) 18:30-19:00  
番組名 現代の音楽 湯浅譲二の個展  
放送 NHKラジオ第2  
作品 1)湯浅譲二/二つのフルートのための相即相入(吉田雅夫/野口龍:fl)  
2)湯浅譲二/ホワイト・ノイズによるプロジェクトン・エセム・ブラステク  
時間 2)7'38"  
演出等 2)NHK電子音楽スタジオ:制作,船越美枝子:担当,鳥根義近:技術  
出演者 湯浅譲二:解説  
再放送 2)1973/12/02 (日) 22:20-23:05 現代の音楽 新しい音の世界 4 新しい音色と素材の探求(NHKラジオFM)上浪渡:話  
2)1987/02/28 (土) 11:15-11:50 現代の音楽 湯浅譲二の音楽 4(NHKラジオFM)  
2)1994/08/16 (火) 23:10-25:00 限りなき音の世界を求めて NHK電子音楽スタジオの40年 2 60年代の電子音楽(NHKラジオFM)  
2)2015/05/17 (日) 08:10-09:00 現代の音楽 作曲家に聞く 湯浅譲二氏を招いて 1(NHKラジオFM)

演奏会 2)1995/10/07 (土) 音・電子メディア 日独作曲家による先駆者たち 2 オーディオ・コンファレンス 日本の電子音楽の展開(ドイツ文化会館ホール,東京)

放送日 1964/05/03 (日) 08:05-09:00  
番組名 現代の音楽  
放送 NHKラジオFM  
作品 1)一柳慧/テープのためのコンサート  
2)一柳慧/ライヴ・ミュージック  
時間 2)14'06"  
演出等 2)NHK電子音楽スタジオ:制作 ※草月アートセンターの制作の可能性がある  
演奏者 青木鈴慕,大橋敏成,小杉武久,小林健次,武田明倫,刀根康尚,野口 龍,村岡 実,

放送日 1964/06/10 (水) 21:00-22:00  
番組名 音楽のおくりもの  
放送 NHKラジオ第2  
作品 1)音楽劇「恋山」  
2)] S. Bach/音楽の捧げ物から  
時間 1)40'40"  
作家 1)木村嘉長:作,石井眞木:音楽  
演出等 1)三枝健剛(嘉雄):演出,高柳裕雄:技術,NHK電子音楽スタジオ:電子音楽

演奏者 1)森正:cond,東京混声合唱団,東京ロイヤル・フィルハーモニック  
出演者 1)三枝嘉美子(巫女)

放送日 1964/06/24 (水) 21:00-22:00  
番組名 音楽のおくりもの

NHK東京において制作された電子音楽の調査(1952~1968年)

放送 NHKラジオ第2  
作品 1)音楽劇「鬼太鼓」  
2)Antonio Vivaldi/合奏協奏曲  
作家 1)田中大助:作,野上彰:脚色,小林秀雄:音楽  
演出等 1)原和孝:演出  
演奏者 1)森正:cond,高珠恵管弦楽団  
出演者 1)野村万作(語り手),築地文夫(仁之藏):Bs,真島美弥(おひい):S,栗林義信(ひげ男):Br,石井昭彦(又衛):T  
再放送 1)1967/09/11(月) 21:15-22:00 音楽のおくりもの(NHKラジオFM)

放送日 1964/06/21(日) 22:15-23:00  
番組名 現代の日本音楽  
放送 NHKラジオ第2  
作品 暗黒への招待  
作家 大岡信:構成,一柳慧:音楽  
演出等 片山彦三:演出,本間明:効果,川島元:技術  
演奏者 一柳慧:pf,多忠磨:笙,山口五郎/横山勝也:尺八,観世栄夫:能囃子,小林健次/植木三郎:vn,佐藤英彦:perc,日本合唱協会女声コーラス  
出演者 中谷一郎:朗読,藤井凡大:解説  
再放送 1964/06/27(土) 16:15-17:00 現代の日本音楽(NHKラジオ第2)※再放送  
1964/07/19(日) 08:05-09:00 現代の音楽 最近のテープ音楽作品から(NHKラジオFM)

放送日 1964/06/30(火) 21:00-22:00  
番組名 芸術劇場  
放送 NHKラジオ第2  
作品 深い淵  
作家 堀田善衛:作,廣瀬量平:音楽  
演出等 田村一郎:演出,大八木健治:効果,土岐静孝:技術  
演奏者 廣瀬量平:cond,吉田雅夫:fl,コンセルバトアール  
出演者 若宮忠三郎(春助),白坂道子(姫こ),永田 靖(魔物),牧よし子(老婆),松本克平(團元)

再放送 1964/11/03(祝) 21:00-22:00 芸術劇場 昭和39年度芸術祭参加(NHKラジオ第2)※芸術祭参加  
1986/10/12(日) 22:20-23:30 ラジオ名作劇場(NHKラジオ第2)遠藤ふき子/湯浅辰馬:解説  
放送日 1964/07/19(日) 08:05-09:00  
番組名 現代の音楽 最近のテープ音楽作品から  
放送 NHKラジオFM  
作品 1)三保敬太郎/ディヴェルタメント  
2)一柳慧/暗黒への招待  
3)湯浅譲二/ホワイト・ノイズによるプロジェクト・エセム・プラスティック  
時間 1)8'58"  
演出等 1)NHK電子音楽スタジオ:制作

作品 黛敏郎/カンパノロジー・オリシバ  
時間 3'25"  
演奏者 NHK電子音楽スタジオ:制作  
演奏会 1964/10/10(土) 東京オリンピック 開会式(国立競技場,東京)  
1964/10/24(土) 東京オリンピック 閉会式(国立競技場,東京)  
2011/08/28(火) JCMR KYOTO Vol.5 黛敏郎の電子音楽全曲上演会(京都芸術センター)能美亮士:音響

放送日 1964/11/28(土) 21:30-22:00  
番組名 夜のステレオ  
放送 NHKラジオ第1/第2  
作品 諸井誠/くさびら 狂言と電子音響による  
時間 21'14"  
演出等 NHK電子音楽スタジオ:制作,高柳裕雄:技術  
演奏者 茂山七五三/茂山千之丞:狂言  
出演者 諸井誠/観世栄夫:対談

1965  
放送日 1965/01/03(日) 21:00-22:00  
番組名 音楽詩劇「日本の冬」  
放送 NHKラジオFM  
作品 音楽詩劇「日本の冬」第1部 水仙月の四日/第2部 春にかける橋  
時間 第1部 28'17"  
作家 第1部 宮沢賢治:原作,青木晃二:脚色,岡本一彦:原作(劇中劇「あまんじゃくと狐」),増田宏三:音楽/第2部 岡本一彦:作,小倉朗:音楽  
演出等 第1部 NHK電子音楽スタジオ:電子音楽制作  
演奏者 第1部 若杉弘:cond,高珠匠室内管弦楽団  
出演者 第1部 久米明(語り手),加藤玉枝(雪ばんこ),友部光子/加藤みどり(雪わらす),野村万作(狐),野村万之丞(あまんじゃく),東京放送劇団,劇団三十人会

放送日 1965/04/04(日) 08:05-09:00  
番組名 現代の音楽 一柳慧の作品  
放送 NHKラジオFM  
作品 一柳慧/空  
時間 59'59"  
制作 NHK電子音楽スタジオ:制作  
出演者 一柳慧,観世寿夫,小泉文夫,吉田秀和:座談会

放送日 1965/07/25(日) 10:30-11:00  
番組名 音の四季 イタリヤ賞参加  
放送 NHKラジオ第1  
作品 音の四季 日本の自然  
作家 串田孫一:脚色,冨田勲:音楽  
演出等 中坪礼治:構成/演出,島根義近:調整技術  
演奏者 フールサンズ  
出演者 荒川修(語り手)  
備考 イタリヤ賞参加

放送日 1965/07/25(日) 23:00-23:55  
番組名 現代の音楽  
放送 NHKラジオFM  
作品 1)対話を伴った交響曲「象形」第1楽章 序奏と対話/第2楽章 対話と夜明け/第3楽章 葬送 不安とおのき/第4楽章 恋人たちの眠りの園/第5楽章 戦い/第6楽章 パッサカリヤ  
2)大岡信 詩,端山貢明 作曲/おはなし(中島みつる:MS,中沢洋子:pf)  
時間 1)26'32"  
作家 1)大岡信:ことば,端山貢明:作曲/構成  
演出等 1)大塚修造(成沢玲子,井上 奨):演出,高柳裕雄(西勝東一):技術,NHK電子音楽スタジオ:ミュージック・コンクレート制作  
演奏者 1)若杉弘:cond,NHK交響楽団  
出演者 1)岸田今日子/影万里江/山本 学/水島 弘:ナレーション,大岡信/端山貢明/遼山一行:座談会

放送日 1965/07/26(月) 21:00-22:00  
番組名 音楽のおくりもの  
放送 NHKラジオFM  
作品 音楽詩劇「御者バエトーン」  
時間 45'38"  
作家 木原孝一:作,諸井誠:音楽  
演出等 前田直純:演出,西畑作太郎:技術,NHK電子音楽スタジオ:電子音  
演奏者 森正:cond,東京混声合唱団,東京放送合唱団,NHK交響楽団  
出演者 有川博(バエトーン),高橋昌也(アポローン),砂原美智子(クリュメネー),大塚周夫(セウズ),七尾玲子(デーメーテル),栗林義信(ボセイドーン),塚田正昭(エバボス),斎藤江美子(碇のニンフ),柳井清子(声),劇団青年芸術劇場  
再放送 1965/12/30(木) 22:10-23:00 音楽詩劇「御者バエトーン」 第17回イタリヤ賞コンクールラジオ音楽部門イタリヤ賞受賞作品(NHKラジオ第1)  
1976/03/26(金) 09:00-10:40 家庭音楽鑑賞 なつかしの音楽録音から 5(NHKラジオFM)三善清達:話  
1985/03/21(木) 22:45-23:50 海外番組コンクール グランプリ受賞作品集 第4夜(NHKラジオFM)

演奏会 1966/03/18(金) NHK音楽祭 パレエの夕べ(産経ホール,東京)横井 茂:振付,畑俊俊明(バエトーン),江川 明(アポロン),本田世津子(クリュメネー),有馬五郎(セウズ),三条万里子(デーメーテル),内田道生(ボセイドーン),木俣貞雄(エバボス),鬼沢徳子(碇のニンフ),谷桃子:パレエ,松山樹子:パレエ,東京パレエグループ  
1966/03/20(日) 20:30-22:20 NHK音楽祭 パレエの夕べ(NHK教育テレビ)  
備考 イタリヤ賞 グランプリ受賞

放送日 1965/08/08(日) 23:00-23:55  
番組名 現代の音楽  
放送 NHKラジオFM  
作品 黛敏郎/テープのための三つの讃  
時間 43'58"  
演出等 NHK電子音楽スタジオ:制作  
演奏者 黛敏郎:解説  
演奏会 2011/08/28(火) JCMR KYOTO Vol.5 黛敏郎の電子音楽全曲上演会(京都芸術センター)能美亮士:音響

放送日 1965/10/30(土) 22:15-22:30  
番組名 昭和40年度芸術祭参加音楽部門  
放送 NHKラジオ第2  
作品 石井真木/波紋 室内アンサンブル、テープのための音楽  
時間 9'48"  
演出等 本間 明:演出,植田清孝:技術,NHK電子音楽スタジオ:電子音

演奏者 若杉弘:condcond,小林健次:vn,プロコル室室内楽団  
出演者 石井真木:解説  
再放送 1967/06/11(日) 23:05-23:55 現代の音楽 石井真木作品(NHKラジオFM)  
1971/03/29(月) 22:15-23:00 現代の音楽 作曲家シリーズ 石井真木と作品 3(NHKラジオFM)遼山一行:解説  
2002/06/16(日) 18:00-18:50 現代の音楽(NHKラジオFM)

演奏会 1969/08/12(火) 石井かほる舞踏公演(虎ノ門ホール,東京)  
備考 芸術祭参加

1966

放送日 1966/01/02(日)-12/25(日)  
番組名 源義経  
放送 NHK総合テレビ  
作家 村上元三:作,武満 徹:音楽  
演出等 吉田直哉:演出  
備考 奥山重之助による電子的変調などが行われた。

放送日 1966/03/19(土) 22:30-23:00  
番組名 シュトックハウスン作品発表会  
放送 Karlheinz Stockhausen/Telemusik(テレミュゼック I 1966)  
時間 17'24"  
演出等 NHK電子音楽スタジオ:制作,上浪 渡:プロデューサー,塩谷 宏/佐藤 茂/本間明:技術  
出演者 Karlheinz Stockhausen:解説,上浪 渡/塩谷 宏/武満 徹/吉田秀和:座談会  
再放送 1966/03/20(日) 20:00-20:30 シュトックハウスン作品発表会(NHK教育テレビ)  
1966/03/20(日) 23:00-23:40 シュトックハウスン作品発表会(NHKラジオFM)  
1966/03/21(日) 08:20-09:00 シュトックハウスン作品発表会(NHKラジオFM)

1966/12/30(金) 19:15-22:00 1966年音楽ハイライト(NHKラジオFM)柴田南雄:解説  
1968/01/07(日) 23:05-23:55 現代の音楽 二つの電子音楽・作品(NHKラジオFM)秋山邦晴:解説  
1971/08/09(日) 22:15-23:00 現代の音楽 日本の電子音楽 1(NHKラジオFM)上浪 渡:解説  
1976/11/07(日) 22:20-23:05 現代の音楽 シュトックハウスンの音楽(NHKラジオFM)上浪 渡:話  
1982/03/21(日) 23:05-23:55 NHK電子音楽スタジオ 手作りからコンピュータまで 第2回 市民権を得て(NHKラジオFM)諸井誠/上浪 渡:解説  
1988/05/03(火) 15:30-16:30 NHK電子音楽スタジオ作品集 1(NHKラジオFM)上浪 渡:解説

演奏会 1966/03/22(火) NHK放送会館 第1スタジオ,東京  
1972/02/25(金) 現代音楽のフォーラム 外と内へ(大阪ドイ文化センター,大阪)上浪 渡:司会  
2003/06/21(土) 同志社大学 第27回 外国文化週間 trans- レクチャーコンサート(同志社大学 今出川校地チャペル,京都)  
2005/06/24(金) 第21回 東京の夏 音楽祭 2005 日本におけるドイソ年2005/2006(アートスフィア天王洲アイル,東京)

放送日 1966/05/01(日) 23:05-23:55  
番組名 現代の音楽 シュトックハウスン作品発表会  
放送 NHKラジオFM  
作品 1)Karlheinz Stockhausen/Solo für Melodie-Instrument mit Rückkopplung(ソロ I)  
2)Karlheinz Stockhausen/Solo für Melodie-Instrument mit Rückkopplung(ソロ II)  
時間 1)10'46",2)15'24"  
演出等 NHK電子音楽スタジオ:制作,上浪 渡:プロデューサー,塩谷 宏/佐藤 茂/本間明:技術  
演奏者 1)野口 龍:fl,2)平田泰資:tb  
出演者 Karlheinz Stockhausen:解説,上浪 渡/諸井 誠/吉田秀和:座談会  
演奏会 1966/04/25(月) NHK放送会館 第1スタジオ,東京  
1970/02/06(金) 第4回 日独現代音楽祭(東京文化会館 小ホール)Heinz Holliger:ob

放送日 1966/08/31(水) 21:15-22:00  
番組名 立体放送劇  
放送 NHKラジオFM  
作品 叙事詩「コンネット・イクヤ」  
時間 53'26"  
作家 寺山修司:作,湯浅譲二:作曲/音楽構成  
演出等 NHK芸能局:制作,佐々木昭一郎:演出,大木本 実:効果,土岐静孝:技術  
演奏者 観世寿夫/観世栄夫/観世静夫:vocalise,一柳 慧:pf,横山勝也:尺八,野口 龍:fl

放送日 1966/08/31(水) 21:15-22:00  
番組名 立体放送劇  
放送 NHKラジオFM  
作品 叙事詩「コンネット・イクヤ」  
時間 53'26"  
作家 寺山修司:作,湯浅譲二:作曲/音楽構成  
演出等 NHK芸能局:制作,佐々木昭一郎:演出,大木本 実:効果,土岐静孝:技術  
演奏者 観世寿夫/観世栄夫/観世静夫:vocalise,一柳 慧:pf,横山勝也:尺八,野口 龍:fl

**出演者** | 岡田恭子(少女),若林彰(男),阪口美奈子(男の妻),  
 彼岸喜美子(失踪人の妻),池谷薫(イケヤ群星の発見者),  
 文学座,新人会,東京放送劇団,東京放送児童劇団

**再放送** | 1966/10/02(日) 22:15-23:15 立体放送劇「コメット・イ  
 ケヤ」イタリア賞ステレオ部門受賞(NHKラジオ第1/  
 第2)

| 1967/01/04(水) 21:15-22:15 名作劇場 ステレオ・シ  
 リーズ(NHKラジオFM)

| 1971/01/30(土) 22:15-23:05 芸術劇場 ステレオドラ  
 マ秀作シリーズ 1(NHKラジオFM)

| 1976/03/05(金) 22:20-23:10 ドラマ ステレオ・ドラ  
 マ・シリーズ 1(NHKラジオFM)

| 1983/12/25(日) 22:55-23:55 寺山修司ドラマシリーズ  
 2(NHKラジオFM)

## 1967

**放送日** | 1967/03/22(水) 19:20-20:00

**番組名** | ふたつの電子音楽 放送記念祭特集

**放送** | NHKラジオFM

**作品** | 1)湯浅譲二／ホワイト・ノイズによるアイコン  
 2)黛敏郎／マルチ・ピアノのためのカンパノロジー 第1  
 番

**時間** | 1)12' 45", 2)8' 08"

**演出等** | NHK電子音楽スタジオ・制作

**演奏者** | 2)八木正生・multi-pf

**出演者** | 湯浅譲二／黛敏郎:解説,柴田南雄／武満 徹:対談

**再放送** | 1)1968/01/07(日) 23:05-23:55 現代の音楽 二つ  
 の電子音楽・作品(NHKラジオFM)秋山邦晴:解説

| 2)1974/01/13(日) 22:20-23:05 現代の音楽 新しい  
 音の世界 7 テクノロジーとの結びつき(NHKラジオ  
 FM)上浪 渡:話

| 1)1988/05/03(火) 15:30-16:30 NHK電子音楽スタ  
 ジオ作品集 1(NHKラジオFM)上浪 渡:解説

| 2)1994/08/15(月) 23:10-25:00 限りなき音の世界を  
 求めて NHK電子音楽スタジオの40年 1 東京  
 1950 電子音楽、ミュージック・コンクレートの実験的  
 な時代(NHKラジオFM)Loubet Emmanuel:解説

| 2)2002/05/19(日) 18:00-18:50 現代の音楽(NHKラ  
 ジオFM)西村朗:解説

| 1)2002/06/16(日) 18:00-18:50 現代の音楽(NHKラ  
 ジオFM)西村朗:解説

**演奏会** | 1)1967/10/12(木) クロストーク 第1回 公開リハーサ  
 ル(アメリカ文化センター,東京)

| 1)1967/11/13(月) クロストーク 1(朝日講堂,東京)

| 1)1969/02/05(水) クロストーク/インターメディア 第  
 1夜(国立競技場,東京)

| 1)1972/02/25(金) 現代音楽のフォーラム 外と内へ  
 (大阪ドイック文化センター,大阪)上浪 渡:司会

| 1)1978/11/11(土) 音響による彫刻・未来への音響  
 Series 2(Big Box ビクター・ショールーム,東京)

| 1)1980/05/28(水) 今日の音楽 8 第1夜 パノラ  
 マ・ニュー・ミュージック(西武劇場,東京)

| 1)1999/08/12(木) 湯浅譲二 始原、そして未来へ...  
 Celebrating the 70th Birthday(東京オペラシティリサイ  
 タルホール)

| 1)2002/05/22(水) コンポージアム2002湯浅譲二 ミ  
 ュージック・ウィズ・テクノロジ(東京オペラシティリサイ  
 タルホール)

| 1)2003/10/31(金) けいはんなメディアフェスティバル  
 2003メディアコンサート(けいはんなプラザ イベントホー

ル,京都)

| 1)2008/03/27(木) eX. 7 湯浅譲二「投金/げき」  
 投射実験 experiment シンボジウム 湯浅譲二  
 の探求 電子音楽を中心に(すみだトリフォニーホー  
 ル小ホール,東京)

| 1)2009/07/11(土) 第25回 東京の夏 音楽祭  
 2009 日本の電子音楽(草月ホール,東京)有馬純  
 寿:音響

| 1)2010/10/25(月) Opus-Medium Project vol. 5 ア  
 クチュアル・エンティティ 生成する境界知とサウンド  
 の世界(東京オペラシティリサイタルホール)

| 2)2011/08/28(火) JCMR KYOTO Vol. 5 黛敏郎の  
 電子音楽全曲上演会(京都芸術センター)能美亮  
 士:音響

| 1)2012/10/14(日) 松本俊夫の映画音楽(久万美術  
 館,愛媛)能美亮士:音響

**放送日** | 1967/03/22(水) 21:15-22:00

**番組名** | ステレオドラマ イタリア賞参加

**放送** | NHKラジオFM

**作品** | 愛と修羅 源氏物語より

**時間** | 45' 34"

**作家** | 水尾比呂志:作,湯浅譲二:音楽

**演出等** | NHK芸能局 第1制作部:制作,沖野 暉:演出,太田時  
 雄:技術,大木本実:効果

**演奏者** | 外山雄三:cond,唐木暁美:S,横山勝也:尺八,高尾山  
 葉王院:琵琶,日本雅楽協会,オーケストル・リール

**出演者** | 宇野重吉(語り手),奈良岡朋子(六条御安所/生霊),  
 吉田日出子(斎の宮),観世静夫(光源氏),長内美那子  
 (夕顔),幸田弘子(葵の上),伊島幸子(空蝉),伊藤  
 牧子(軒端の萩),富田恵子(末摘花),里見京子(朧月  
 夜),三井美奈(紫の上),清水将夫(僧都),綱島初子  
 (女房),ユニオン・プロ

**再放送** | 1967/10/04(水) 21:10-22:00 ステレオドラマ 愛と修  
 羅 源氏物語より 1967年イタリア賞ステレオ部門受賞  
 (NHKラジオFM)

| 1967/11/03(祝) 21:10-22:00 ステレオドラマ 愛と修  
 羅 源氏物語より(NHKラジオFM)

| 1975/01/31(金) 22:20-23:10 ドラマ ステレオドラマ・  
 シリーズ 5(NHKラジオFM)

| 1985/03/20(水) 22:45-23:50 海外番組コンクール  
 グランプリ受賞作品集 第三夜(NHKラジオFM)沖野  
 暉:解説,橋本調子アナ司会

**放送日** | 1967/11/23(木) 22:00-23:00

**番組名** | ステレオドラマ 昭和42年度芸術祭参加

**放送** | NNHKラジオFM

**作品** | 叙事詩「まんだら」

**時間** | 56' 57"

**作家** | 寺山修司:作,湯浅譲二/野沢松之輔:音楽

**演出等** | 沖野 暉:演出,川崎 清:効果,広門隆二:技術,長野  
 豊:技術(電子音楽),NHK電子音楽スタジオ:電子音  
 楽

**演奏者** | 野沢松之輔/鶴沢重造/豊本豊糸:三味線,渋谷京  
 子:子供の三味線,青森市立橋本小学校:子供の歌,青  
 森市観光協会/地元有志:ねふた囃子

**出演者** | 奈良岡朋子(盲目の女),山谷初男(謙作),吉田日出  
 子(チサ),原 泉(七草の女),鈴木光枝(キエ),大森暁  
 美(ハギ),諸石 茂(古間木義人),高橋昌也/山本学  
 (死神),ユニオンプロ,文化座,劇団三十人会,劇団こま  
 とり

**再放送** | 1968/01/03(水) 22:10-23:10 まんだら(NHKラジオ

FM)

| 1972/01/30(日) 22:15-23:15 芸術劇場 ステレオ秀  
 作シリーズ 4(NHKラジオFM)

| 1977/03/26(土) 22:20-23:20 ドラマ ステレオ・ドラ  
 マ・シリーズ 4(NHKラジオFM)

| 1983/12/26(月) 22:55-23:55 寺山修司ドラマシリーズ  
 3(NHKラジオFM)

| 1990/10/21(日) 24:00-26:00 ラジオ深夜便 たっふ  
 リアワー ドラマアワー 寺山修司シリーズ 3まんだら  
 (NHKラジオ第1)沖野 暉/久保博/白坂道子:解説

**作品** | 松平頼暁/弦楽四重奏とリング変調器のための「分布」

**演奏会** | 1968/03/16(土) クロストーク 3(朝日講堂,東京)飯  
 吉増彦:cond,植木弦楽四重奏団(植木三郎,板橋健,  
 山崎正秋,高橋忠男),奥山重之助:技術

| 1971/02/05(金) 現代の音楽展 '71(東京文化会館小  
 ホール)植木弦楽四重奏団,松平頼暁:リング変調器

| 1971/05/17(月) 22:15-23:00 現代の音楽 現代の  
 音楽展 '71より(NHKラジオFM)

| 1987/12/08(火) 松平頼暁作品演奏シリーズ No. 6  
 弦楽器のために(音楽の友ホール,東京)

**備考** | NHK電子音楽スタジオ委嘱

**作品** | 湯浅譲二/眠り,交通マヒ

**時間** | 2' 10"/2' 33"

**備考** | バック音楽/第8集に収録

## 1968

**放送日** | 1968/03/22(金) 20:30-21:00

**番組名** | ふたつの電子音楽

**放送** | NHKラジオFM

**作品** | 1)柴田南雄/電子音のためのインプロヴィゼーション  
 2)諸井 誠/小懐梅

**時間** | 1)9' 43", 2)13' 32"

**演出等** | NHK電子音楽スタジオ:制作,1)遠藤俊郎:技術

**再放送** | 1)1970/11/16(月) 22:15-23:00 現代の音楽 柴田南  
 雄と作品 4(NHKラジオFM)遠山一行:解説

| 1,2)1971/08/16(月) 22:15-23:00 現代の音楽 日本  
 の電子音楽 2(NHKラジオFM)上浪 渡:解説

| 1)1982/03/27(土) 23:05-23:55 NHK電子音楽スタ  
 ジオ 手作りからコンピュータまで 第3回 新しい音  
 空間(NHKラジオFM)上浪 渡/柴田南雄:解説

| 1)1988/05/04(祝) 15:30-16:30 NHK電子音楽スタ  
 ジオ作品集 2(NHKラジオFM)上浪 渡:解説

| 2)1994/08/16(火) 23:10-25:00 限りなき音の世界を  
 求めて NHK電子音楽スタジオの40年 2 60年代  
 の電子音楽(NHKラジオFM)

**演奏会** | 2)1969/02/22(土) 第3回 日独現代音楽祭(東京文  
 化会館 小ホール)Hilmer Schatz:cond,酒井松道/  
 清水義矩/尾崎大一:尺八,山口保宣:perc,奏 妖  
 子:舞

| 2)1978/06/10(土) パンムジーク・フェスティバル3パー  
 ト2(ABCホール,東京)※対話5題と同時演奏

| 2)1995/10/07(土) 音・電子メディア 日独作曲家による  
 先駆者たち 2 オーディオ・コンファレンス 日本  
 の電子音楽の展開(ドイツ文化会館ホール,東京)

| 1)2009/07/11(土) 第25回 東京の夏 音楽祭  
 2009 日本の電子音楽(草月ホール,東京)有馬純  
 寿:音響